
三木市
就学前教育・保育共通カリキュラム

三 木 市
三木市教育委員会

目次

I 三木市がめざす就学前教育・保育の基本方針

1	基本的な考え方	1
2	めざす子ども像	4
3	カリキュラムにおける三木市独自の重点内容	5
(1)	乳児から就学前の幼児までの発達過程を見通した教育・保育の充実	5
(2)	三木市の豊かな自然を生かした教育・保育	5
(3)	子どもの人権	6
(4)	組織的な特別支援教育・保育	7
(5)	小学校との連携	7
(6)	養護	8
(7)	健康・安全の保持及び食育の推進	9
(8)	子育て支援へのアプローチ	10
(9)	研修の充実	11
(10)	評価及び監査	13

II 三木市共通カリキュラム

1	カリキュラム策定に当たって	15
2	期の考え方	15
3	年齢別カリキュラムの記述内容	17
4	特に配慮すべき事項	18

年齢別カリキュラム

0・1・2歳児カリキュラム	23
2歳児カリキュラム	34
3歳児カリキュラム	38
4歳児カリキュラム	42
5歳児カリキュラム	46

I 三木市がめざす就学前教育・保育の基本方針

1 基本的な考え方

乳幼児期は、自我の芽生えが始まり、保護者との信頼関係や他の大人や子ども同士の関わりの中で、自尊感情と社会性が育まれる重要な時期であり、生涯にわたる人格形成の基礎が培われます。しかし、少子高齢化や核家族化、地域の教育力の低下など、社会の変化は激しく、乳幼児期にふさわしい豊かな生育環境のあり方を、今一度見直すことが必要となっています。

そこで三木市では、市内の就学前教育・保育施設の配置と規模の適正化を図りつつ、教育・保育の質の向上について、積極的な取組を行っています。

家庭での育児を大切にしながらも、必要とする全ての子どもが教育・保育を切れ目なく受けることができ、0歳児から5歳児までの幅のある異年齢集団の中で、子どもの豊かな育ちを保障していくことをめざしています。

特に、幼保連携型認定こども園（以下「こども園」という。）や保育所には、年齢、在園期間、保護者の就労の有無など、多様な背景をもつ子どもが在籍します。したがって、保育教諭や保育士の一人一人が、子どもの理解を深め、適切な支援をしていかなければなりません。

また、三木市は人権尊重の文化に根ざしたまちづくりを推進しています。この理念に基づき、市内すべてのこども園・保育所・幼稚園（以下「園（所）」という。）において、『一人一人の心の育ちを温かく受け止め、自尊感情を育み、命の大切さを実感できる教育・保育』並びに『就学後の小学校、中学校までを見据えた、一貫した教育・保育』を行います。

このたび、国が「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」を改訂したことを受け、三木市独自に策定した現行の共通カリキュラムについても国改訂内容との整合を図るとともに、市内各園（所）においてカリキュラムを用いた実践によって蓄えられた知見等を反映させるべく、このたびの改訂を行うものです。

(参考)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

(平成 26 年度内閣府文部科学省厚生労働省告示第 1 号)
平成 26 年 4 月 30 日

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」策定の考え方

平成 26 年に内閣府・文部科学省・厚生労働省から告示された「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は次の 3 つの基本的な考え方によって策定されました。

- (1) 子どもを取巻く環境を通しての教育及び保育の実施
- (2) 小学校との円滑な接続の重視
- (3) 特に配慮すべき事項
 - ・ 0 歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を、園児の発達連続性を考慮して、展開していくものとしたこと。
 - ・ 園児の一日の生活の連続性及びリズムに配慮するとともに、保護者の生活形態を反映した園児の在園時間の長短、入園児期や登園日数の違いを踏まえ、一人一人の状況に応じ、教育及び保育の内容やその展開について工夫をするものとしたこと。特に入園及び年度当初は、生活の仕方やリズムに十分に配慮するものとしたこと。
 - ・ 教育及び保育の環境構成の工夫について、満 3 歳未満の園児と満 3 歳以上の園児に分けて明示したこと。

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

(内閣府文部科学省厚生労働省告示第 1 号)
平成 29 年 3 月 31 日改正
平成 30 年 4 月 1 日施行

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」改訂に当たっての基本的な考え方

平成 26 年に内閣府・文部科学省・厚生労働省から告示された「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は次の方針に基づき改訂されました。

- (1) 幼稚園教育要領及び保育所保育指針との整合性の確保
 - ・ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力を明確にしたこと。
 - ・ 5 歳児修了時まで育ててほしい具体的な姿「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を明確にしたこと。

-
- 園児の理解に基づいた評価の実施、特別な配慮を必要とする園児への指導を充実させたこと。
 - 乳児期及び満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関する視点及び領域、ねらい及び内容並びに内容の取扱いを明示したこと。
 - 近年の子どもの育ちを巡る環境の変化等を踏まえ、満3歳以上の園児の教育及び保育の内容の改善を図り充実させたこと。
 - 近年の課題に応じた健康及び安全に関する内容の充実、特に、災害への備えに関してや教職員間の連携や組織的な対応について明示したこと。
- (2) 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項等の充実
- 幼保連携型認定こども園の教育と保育が一体的に行われることを教育・保育要領の全体を通して明示したこと
 - 「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」を明確にしたこと。
 - 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項として、満3歳以上の園児の入園時や移行時について、多様な経験を有する園児の学び合いについて、長期的な休業中やその後の教育及び保育等について、明示したこと。
 - 多様な生活形態を有する保護者への配慮や地域における子育ての支援の役割等、子育ての支援に関して内容を充実させたこと。
-

2 めざす子ども像

生きる力の基礎（心情・意欲・態度）を育む



3つの自立

生活上の自立

学びの自立

精神的な自立



めざす子ども像

- ・ たくさんの愛情に包まれて安心して健やかに育ち、人に対する信頼感や思いやりをもつ子ども
- ・ 身体も心もたくましく自立する子ども
- ・ 自分と友達の良さに気づき、認め合い、共に育ち合う子ども
- ・ さまざまな物事に興味・関心をもち、互いの思いを伝え合い、遊びや生活を豊かにする子ども
- ・ 人やものとかかわりながら、自分なりのイメージを持って考え、感性豊かに表現する子ども



一人一人を育むこども園・保育所・幼稚園

三木市の特性

温かな家庭

豊かな自然

地域の絆

3 カリキュラムにおける三木市独自の重点内容

(1) 乳児から就学前の幼児までの発達の過程を見通した教育・保育の充実

人は生涯を通して成長・発達します。特に、0歳児から5歳児の時期は、子どもの自尊感情や社会性の基盤を形成し、生きる力の基礎を育む重要な時期です。このような生涯発達の見通しに立って、各園（所）での教育・保育のあり方を考えなければなりません。

この時期の子どもの育ちを保障していくに当たっては、一人一人の子どもの実態を把握し、個々の発達の課題に応じつつ、園（所）として一貫性のある教育・保育を行うことが大切です。その際、年齢や入園時期、在園時間・期間、保護者の就労の有無等、一人一人の子どもの多様な背景を持っていることに十分に配慮し、おのおのの生活や遊び、学びの連続性を考慮した教育・保育内容を工夫しなければなりません。

本カリキュラムでは、園（所）生活を通して生きる力の基礎を育むために、年齢・期毎の標準的なねらいと内容を示します。保育教諭・保育士・幼稚園教諭（以下「保育者」という。）は、一人一人の子どもの多様性を踏まえつつ、その年齢・期毎にふさわしい生活や遊びを提供していくことが求められます。そして、園（所）全体として、子ども自らが主体的に人やもの、自然にかかわりながら育ち合えるよう環境を整えることで、教育・保育の充実を図ります。

(2) 三木市の豊かな自然を生かした教育・保育

三木市は、県の都市近郊に位置し、多くの自然が残された緑豊かなまちです。

豊かな自然環境の中で、季節の変化を感じながら、戸外でのびのびと安心して身体を動かし、遊びを楽しむことは、子どもにとって健やかな心身の発達・成長へとつながります。

また、乳幼児期の多感な時期に、自然の美しさや不思議さに心を動かされ、主体的に自然に関わっていくことを通して、子どもの中に好奇心が生まれ、探究心も育っていきます。こうした遊び

の積み重ねが、子どもの思考力や表現力を育てる基礎となり、豊かな心の育成へとつながります。

さらに、身近な自然物や動植物に繰り返し触れ、互いに感動を伝え合うことにより、子どもの中に、それらに対する親しみや自他の生命を大切にできる心が養われます。

このように、三木市の特性を生かして、教育・保育の中にふんだんに自然を取り入れることにより、子どもの身体と心を豊かに育むことをめざします。

(3) 子どもの人権

人権教育は、人として生きていく上で、最も基本となる教育です。三木市は、人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進を行っており、部落差別の解消をはじめ、さまざまな人権課題の解消をめざす人権教育の取組を各園（所）で実施しています。

乳幼児期の子どもは、身近な人とのかかわりの中で、人格を形成していきます。特に、この時期は、保護者や保育者等、愛情をそそぎ世話をする大人が、重要な役割を果たします。したがって、各園（所）での人権教育は、子どもだけではなく、大人も含めて行うことが原則となります。

各園（所）での教育・保育においては、多様な背景をもつ子ども一人一人をあたたく受けとめ、おのこの発達課題に応じた細やかな配慮をし、安心して過ごすことができる環境づくりを行う必要があります。そのためには、保育者が、高い人権意識をもって、個々の子どもの背景にある生活環境や障がいなど多様な立場や違いを理解した上で、保護者も含めて適切な支援をしていくことも大切です。

さらに、乳幼児期は子どもの成長が著しい時期です。自分のことは自分でしようとする成長への欲求を保育者が受け止めていくことが、子どもの人権を尊重する基本になります。

4、5歳児ともなれば、子ども自らが主体的に生活を作り上げていく態度を養うことも求められます。

以上のことを包括的に実現していくため、人権に関する研修会等への参加をはじめ、園内研修会の開催等、全ての園（所）をあげて、子どもの人権について、積極的に学び合いを重ねていきます。

(4) 組織的な特別支援教育・保育

三木市は、全ての園（所）で障がいのある子どもを受け入れ、支援の必要な子どもの特性に応じた支援を組織的・計画的に行うとともに、障がいに対応する個別支援の内容を、障がいの有無にかかわらず経験することで、全ての子どもに様々な生き方の理解が広がっていくことをめざします。このような合理的配慮に基づいたユニバーサルデザインを推進することで、障がいの有無を問わず全ての子どもの発達を支えていきます。

さらに、三木市では障がいのある子どもへの支援体制として、各園（所）に特別支援教育・保育を推進し、中心のかつ専門的役割を担うため、人材の配置と組織を設置します。

①『特別支援教育・保育コーディネーター』を配置

その主たる職務としては、以下の4つが挙げられます。

- ア 子どもの特性に応じた教育・保育的支援
- イ 家族支援などに関する相談窓口
- ウ 特別支援に関わる機関同士の連携の推進
- エ 特別支援教育・保育推進のための研修計画策定及び実施

②『特別支援教育・保育に関する園内委員会』を設置

以下の取組を進めていきます。

- ア 保育者の特別支援に対する理解を深め、教育・保育の専門性を高めるための継続的研修の実施
- イ 市から派遣される指導主事との連携
- ウ 他園や関係機関との情報の交換と共有、連携
- エ 園児が就学する小学校との交流活動、情報交換、共同研修、連携

これらの取組を通して、全ての園（所）において、子どもと保護者への支援を継続的に行うことで、組織的な特別支援教育・保育体制を充実していきます。

(5) 小学校との連携

乳幼児期から児童期へと、子どもの学びは連続しています。し

かし、各園（所）では遊びや生活を通しての「学びの芽生え」を育むことをめざすのに対して、小学校に入学すると教科学習等を通しての「自覚的な学び」が求められます。このような学びの違いは、子どもが成長するために乗り越えなければならない大きな節目のひとつとなります。

子どもが節目を乗り越え、スムーズに進学するため、各園（所）において、小学校との連携を推進していきます。

- ① 保育教諭等と小学校教諭との間で、以下に示す交流を積極的に行います。

- ア 子どもについての情報交換による共通理解の推進
- イ 各園（所）の教育・保育と小学校教育についての研修会開催と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有
- ウ 教育・保育実践の相互参観と意見交換等

これらの取組を通して、子ども理解と互いの教育や保育についての見識を深め、就学前教育・保育から小学校教育への連続性を確保します。

- ② 子ども同士の交流として、以下のような取組を行います。

- ア 各園（所）と小学校との交流を深める、小学校の教科学習等への園児の参加や各園（所）の教育・保育活動への小学生の参加
- イ 交流園以外の小学校に進学する子どもについて、居住する小学校の運動会等の行事への招待や小学校への訪問体験の実施

このような交流実践を行い、園児には小学生へのあこがれを、小学生には園児への思いやりの心情を育むことで、小学校生活へのスムーズな移行を実現していきます。

(6) 養護

養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために、保育者が行う援助やかかわりであり、子どもの健康増進や自己肯定感を培っていく基盤となります。

生理的欲求が十分に満たされることが、子どもの生きることそのものを保障することにつながります。乳児期から保育を行う子ども園や保育所では、子どもの年齢に関係なく、この「養護の基本」を実現する必要があります。

また、在園時間が異なる多様な保育実態を踏まえ、食事、睡眠、遊び、休息等を無理なく営めるように配慮し、子ども一人一人にふさわしい生活リズムが作られるよう援助を行うことが大切です。

さらに、情緒の安定を図るために、保育者は、温かな関わりやスキンシップによって、子どもと信頼関係をしっかりと築くことが求められます。子どもは、やがて、人との関わりの心地よさを身体で感じ、情緒豊かな応答的なやりとりを楽しめるようになります。こうしたかかわりの積み重ねにより、子どもは安心して意欲的に活動できるようになり、確かな自己肯定感が育まれていきます。

子どものありのままを受け止め、その心の安定を図りながらきめ細かく対応していく養護と、保育者の願いや意図を伝えながら、子どもの成長・発達を促して導いていく教育とは、切り離せるものではありません。各園（所）では、そのことを意識しながら、養護と教育を相互に関連を持たせ一体的に展開していきます。

(7) 健康・安全の保持及び食育の推進

人が健康で安全、安心な生活を営む上で大切なことは、乳幼児期から発達に応じた自立心と社会性を養うための基本的な生活習慣を身に付けていくことです。

健康面について

各園（所）では、子どもの日々の健康状態を、保護者とともに把握し、一人一人の健康の保持及び増進に努めます。また、疾病や感染症を予防するため、専門機関と連携し、衛生的で安全な環境体制を整備し、生活を通して子どもが自らの健康を保つ行為を習慣化できるよう努め、生涯にわたる健康の基礎を培い、身体だけでなく、心の健康も保持、向上していきます。

また、市で策定した児童虐待マニュアルにしたがって、関係機関との連携・情報共有に努め、虐待の発生予防と早期発見・対応

を行っていきます。

安全面について

施設、園庭、遊具、玩具等の日常の安全管理はもちろんのこと、子ども自らが身を守り、安全を確保する能力を育てるため、交通安全・防犯教室等を実施します。さらに、震災の教訓を生かし、定期的に避難訓練を実施し、災害時の適切な行動等について日頃から指導するとともに、事故防止マニュアルを策定し、子どもの安全確保について、家庭や地域、関係機関との連携を図ります。

食育の推進について

三木市の食育の大目標である『健康な生活の基本としての「食を営む力」の基礎を培う』をめざし、乳幼児期からの食育を組織的・計画的・継続的に進めていきます。家庭と連携しながら、食に関する習慣の定着を図るとともに、子どもが食べる喜びを感じられるよう創意工夫をします。また、アレルギー等の個別対応が必要な子どもに対しては、家庭・医療機関と連携しつつ、安全を確保した上で、食生活が豊かになるよう工夫や支援を行います。

その一環として、平成30年度カリキュラム検討委員により作成した、食育リーフレット『みきっ子の食育』（別冊）、『三木市就学前教育・保育食育カリキュラム』も全園（所）で活用していきます。

(8) 子育て支援へのアプローチ

各園（所）は、子どもの最善の利益を図るため、専門性を有する保育者が連携し、子育て支援に取り組みます。そして、日頃から保護者と接する中で、家庭との連携を密にし、一人一人の保護者の意向を尊重して援助を行うとともに、家庭教育の大切さについても積極的に発信していきます。

また、通園している子どもの保護者はもとより、家庭で子育てされている地域の全ての保護者に対しても、子育て相談や情報提供を行い、子育てに自信と喜びをもって取り組めるよう支援の充実を図ります。

加えて、子育てボランティアなど地域の方々の支援もいただきながら各園（所）、家庭、地域のネットワークによる子育て環境の

充実を図ります。

子育ての支援拠点としての具体的内容については、次のとおりとします。

① 子育ての相談窓口…各園（所）

子どもの保護者への子育て相談や情報の提供を行うとともに、家庭で子育てされている地域の保護者に対しても、子育てについての相談、助言、情報の提供などのサポートを行います。

② 一時預かり事業…こども園

1号（教育標準時間）認定の子どもの保護者や、家庭で子育てされている保護者が、家庭において保育を行うことが困難になった場合に、こども園において一時的に保育を行います。

③ 子育て支援拠点…各園（所）

子育てボランティアなど、園に関わっていただいている地域の方々の協力や、市に設置する「子育て支援コーディネーター」により、各園（所）と連携し保護者の子育て相談などを行うとともに、地域の子育て力の向上を図ります。

(9) 研修の充実

乳幼児期は人格形成の基礎が培われる重要な時期であり、自我が形成されると共に他者の存在を意識し始め、人とのかかわりや身近な環境への興味・関心が広がる時期です。好奇心や探求心を育み、生きる力の基礎を培うために、遊びを通した総合的な教育・保育を行うことが大切です。

教育・保育を行うに当たって、保育者には、子どもの内面を理解した上で、人、もの、自然などの教育・保育環境を整えるとともに、主体的かつ豊かな活動を引き出す力が必要となります。子どもを理解するということは、今、子ども一人一人がどのような体験を積み重ねているのか、その体験がどのように充実し、発達につながっているのかを把握することを指します。この子どもへの理解があってこそ、保育者は一人一人の子どもに応じた柔軟な援助をすることが可能となります。

このため、研修を充実し、保育者の資質向上を図ることは、「質

の「高い保育」を実現するために、極めて重要です。三木市では、以下に示すような体制、内容、方法で研修を行います。

三木市内全こども園・保育所・幼稚園の研修

○研修体制の充実

- ・研修に参加しやすい環境づくりのための時間と人員の確保

○研修内容

- ・子ども理解
- ・乳幼児期におけるふさわしい教育・保育内容について
- ・学びの可視化
- ・協同性の学び
- ・発達や学びの連続性
- ・人権教育
- ・特別支援教育・保育
- ・保護者支援

※講師招聘等により研修内容の充実を図る

○研修方法

- ・園内研修会 … 各園で行うもの
- ・交流研修会 … 市内のこども園・保育所・幼稚園が保育を公開し合うなど、合同で行うもの
- ・指定研究会 … 研究指定園を定め、テーマを決めて行うもの



三木市教育委員会

各園の研修をサポートし、研修成果を市内全こども園・保育所・幼稚園で共有するため、情報を発信する。

(10) 評価及び監査

各園（所）においては、本カリキュラムに則り創意工夫しながら、教育・保育を計画、実施、評価、改善することが求められます。

各園（所）は、それぞれの特性を生かし、園（所）長の責任のもと、年間計画を作成します。保育者は、子どもの実態に応じて指導計画を作成し、日々の記録やカンファレンスに基づいて自己評価を行い、必要に応じて教育・保育内容を改善します。さらに、評議員や保護者等の園（所）の関係者評価を実施し、地域にその成果を発信することが求められます。

さらに、三木市では、国が特定教育・保育施設に対してしか求めている、必要に応じた指導勧告等を行うように努めるとした規定を、教育・保育の質の向上や施設の運営のさらなる適正化を図るため、第三者による評価及び監査を三木市条例に基づき、義務づけ、定期的実施します。

以上の方策により、市内全域でどの園（所）においても市が責任を持って、本カリキュラムに基づき均しく質の高い教育・保育を実施していきます。

Ⅱ 三木市共通カリキュラム

1 カリキュラム策定に当たって

三木市の共通カリキュラム策定に当たっては、教育・保育要領を策定するに当たって示された国の3つの考え方を基本とし、今までに示した

- (1) 基本的な考え方
- (2) めざす子ども像
- (3) カリキュラムにおける三木市独自の重点内容

の3点の実現をめざし、カリキュラム策定の視座を以下の通りに持つこととしました。

- ① 3歳未満の園児については特に健康や安全、発達の確保を十分に図るため、月齢ごとの個々の成長に寄り添ったカリキュラムとしています。特に、2歳から3歳にかけては、周りの人間関係や環境への興味、関心が広がる時期であることから、個の発達に配慮し、なおかつ集団の活動に観点を置いたカリキュラムとしています。
- ② 3歳以上の園児は、学級による集団活動の中で遊びを中心に発達を促す視点を重視したカリキュラムとしています。

2 期の考え方

- (1) 「期」とは

年齢ごとに一年を通して、子どもがどのような生活を展開し、どのように発達するかということを見通して、一年間をいくつかの時期に分けたものです。

- (2) 「期」の設定及び理由

三木市のカリキュラムの期を考えるに当たって、こども園に移行する以前の三木市の全ての幼稚園、保育所・保育園のカリキュラムを調査し、それぞれの時期における教育・保育のねらいと内容等をまとめ、検討した結果から以下のように「期」を決定しました。

年 齢 児	期	理 由
0・1歳児 (入園可能となる 月から新年度2 歳児として在籍 するまでの園児)	定めない。	0・1歳児は、入園時期が異なり、 子どもの個人差も十分に配慮する 必要があるために、期を設定せず、 一人一人の状態に応じて対応しま す。
2歳児 (2歳児とは、新年 度満2歳でその 年度内に3歳に なる園児)	低月齢児※1 と高 月齢児※2 に分け た4期とする。 I期(4・5月) II期(6～8月) III期(9～12月) IV期(1～3月)	2歳児は、月齢や入園時期等によ る個人差に配慮しながら、周りの 人間関係や環境への興味・関心の 広がりを促すため、月齢によるカ リキュラムに加えて、3～5歳児 に準じた期によるカリキュラムも 取り入れます。
3～5歳児 (3歳児とは、新年 度満3歳でその 年度内に4歳に なる園児。4・5 歳児も同様の考 え方)	5期とする。 I期(4・5月) II期(6～8月) III期(9・10月) IV期(11～12月) V期(1～3月)	3～5歳児は、個の成長とともに、 子ども相互の関係や協同的な活動 を促すため、多様な教育・保育を 行えるよう、細やかな5期としま す。

※1 低月齢児の目安：10月～3月生まれ

※2 高月齢児の目安：4月～9月生まれ

3 年齢別カリキュラムの記述内容

それぞれの月齢または期におけるねらいや内容等の枠組み及び記述内容は以下のとおりです。

期（月）	1年を子どもの発達段階に配慮し、2歳児は4期、3～5歳児は5期とします。
幼児の姿	この期の子どもの顕著な姿や、予想される姿を記入しています。
ねらい	月齢または期において、子どもに育てたい生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を示しています。 「園児が」を主語としています。
内容	0～2歳児 乳幼児の成育や発達を促すよう、健康、人間関係、環境、言葉、表現などの観点で生活、遊び等を計画的に記載しています。 3～5歳児 園生活の流れの中で、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）に配慮した総合的な取組を記載しています。また、養護を視野に入れた教育・保育の内容を記載しています。
環境構成・援助	月齢または期に応じて発達にふさわしい「ねらい・内容」が達成されるように、保育者が教育・保育の環境を設定する際の留意事項や配慮事項を「環境構成」として記述しています。
家庭・地域・小学校との連携	家庭・地域・小学校と園（所）の生活がつながり、発達に応じた育ちが促されるよう連携の内容や方法を示しています。
在園時間の違いに対する配慮	3～5歳児について、短時間児が在園していない時間や時期における配慮事項を示しています。

4 特に配慮すべき事項

(1) 0・1・2歳児カリキュラムでは…

大切にしたいポイントは、以下の3つです。

- ア 健全な子どもを育てるため、子どもがすくすくと成長する時期に適切な支援をする…保育者の経験年数や知識量の違いに関わらず、発達への理解の共通・共有化を図ること
- イ 子どものキャッチアップ力（自ら発達しようとする力）を支える…個々の発達支援の必要な部分をどのようにサポートしていくのかを探ること
- ウ 家庭と連携をする…0・1・2歳児の発達過程を織り込んだカリキュラムを保護者と保育者が共通の指標として活用、育児のパートナーとして共に進んでいくこと

この時期の子どもにとって、月齢や入園時期等により個人の発達に大きな幅があることを踏まえ、子どもの今ある姿と望むべき姿をしっかりと把握するため、発達の目安を示し、これに応じた教育・保育のねらいや内容を定めました。

「子どもの発達を支援する内容」の活用例

- ① 0・1・2歳児カリキュラムに示されている時期は、子どもが「身につけやすい・習得しやすい・達成しやすい時期」であり、「達成すべき時期」ではありません。
- ② 内容の一つ一つに、「～するようになる」または「～するように支援する」と付けると考えやすく、活用できます。

例：2歳6ヶ月の「味の違いに気づき、楽しんで食べる」

↓

「味の違いに気づき、楽しんで食べるようになる」

「味の違いに気づき、楽しんで食べるように支援する」

そして、この0・1・2歳児カリキュラムは、子どもの評価をするものではありません。

望むべき姿はあくまでも目安であり、目標達成の指標ではないこと（発達チェック表ではないこと）、同じ月齢であっても個人差があることに留意した上で、月齢・項目ごとの発達を十分確認しながら、各園児への支援、教育・保育のねらい、必要な関わり方

や遊びを、個別指導計画に反映します。

(2) 3歳以上の園児は…

同一学年の園児で編成される学級による集団活動で、同年齢や異年齢の集団での遊びを中心とする園児の主体的な活動を通して、個人差及び同一個人の中でも領域により発達の差があることを視野におき、発達を促す経験が得られるよう工夫をするものとします。

また、一日の生活の流れの中で、学級として活動する時間と短時間児が帰った後の活動時間とを工夫し、短時間児と長時間児に差が生じないように配慮するものとします。

(3) 長期休業日（夏休み・冬休み・春休み）・休日（土曜日・日曜日）保育については…

1号（教育標準時間）認定児は長期休業日及び休日は登園しないため、長時間児の長期休業日・休日保育については、そのことを踏まえ、十分配慮することとします。特に、夏休みについては長期にわたり、短時間児が家庭での生活や体験をしていることから、長時間児については、教育・保育内容を家庭的な雰囲気の中で過ごせるような配慮をしなければなりません。

(4) 事例カードの作成と活用については…

三木市全園（所）での教育・保育実践を基にした発達事例カードを作成し（下記①、②）、園（所）内だけでなく、園（所）外にも事例を共有することにより、「子どもを主体」にしたさらなる教育・保育の質の向上をめざします。

① 『みきっ子発達事例カード0・1・2』（A5サイズ）

視点：0・1・2歳児カリキュラムの分野別に見た子どもの発達支援のポイント＜食事・排泄・睡眠・着脱・衛生・言語（理解・コミュニケーション）・人間関係・運動（粗大運動・巧緻運動）・表現・環境・遊び＞

② 『みきっ子発達事例カード3・4・5』（A4サイズ）

視点：幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」＜①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考

力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現＞

今後も共通カリキュラムは、見直しを行っていきます

年齢別カリキュラム

0・1・2歳児カリキュラム

(個の発達を観点とするカリキュラム)

0・1・2歳児

《カリキュラムについて》

0・1・2歳児は月齢や入園時期によって、発達過程に大きな幅がある。子どもの発達過程をしっかりと把握し、その発達状況に応じたカリキュラムを編成するべきであると考えた。まず子どもの発達の目安を示し、これに対しておおむね年齢ごとのカリキュラムを定めることとした。

		0歳											1歳											
		6ヶ月						1歳						1歳6ヶ月										
月齢		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○保健的で安全かつ家庭的な環境において、個別保育を重視し、個人差に十分配慮した乳児の基本的な欲求を満たす関わりをする。 ○一人ひとりの乳児の生命が守られ、心身ともに安心・安全に過ごす。 ○まわりの人からこよなく愛され、人への基本的信頼感を形成する。 ○乳児の生活が安定していくための基本となる睡眠のリズムを確立し、情緒の安定を図り健康的な生活リズムをつくっていく。 ○自分の周囲や人への関心を持てるような環境を通して、ことばや人間関係の基盤をつくる。 ○いろいろな食べ物に慣れ、楽しい雰囲気の中で喜んで食事ができるようにし、離乳食の完了を図る。 ○保育教諭との関係の中で表情・発声などにより、自分の気持ちを表現する。 											<ul style="list-style-type: none"> ○生理的欲求が満たされ、心身ともに健康に過ごす。 ○安定した生活リズムの中で保育者に見守られ、励まされながら身のまわりことを自分でしようとする気持ちを持つ。 ○保育教諭との信頼関係のもと、安心して自分の気持ち（意思や欲求）を表し、また、遊びの中で自分の思いを動作や簡単な言葉を使って表現することで、コミュニケーションの力を身につける。 ○安全・安心な環境のもと、戸外・室内ともに好きなあそびを心と体を十分に使って楽しみ、探索活動を様々な経験の中で、周囲に興味・関心を持つ。 ○感覚を使って経験したことをくり返すことによって、音あそび、模倣などを楽しもうとすることができるようになる。 ○様々な食べ物の味を知り食べることの楽しさを感じる。 											
	子どもの発達を支援する内容	食事	湯ざめを飲む スプーンに慣れる 1回食になる 味に慣れる 味覚が発達する						2回食になる 舌を上手に使って食べる 飲ませてもらうとコップで飲める 歯茎を使って食べる 手づかみで食べる 哺乳瓶からコップへ移行する 3回食になる くちびるを使う 椅子に座って食べる 離乳に移行する 離乳が完成する						遊び食べをする 椅子に座って食べる 離乳が完成する 自分の食べ物と人の食べ物の区別ができる コップを両手で持って飲める 咀嚼が完成する こぼすがひとりで食べられる スプーンを使ってみようとする(上手握り) スプーンを使って食べようとする(逆手握り)									
		排泄	安心してオムツ交換をしてもらう おむつを替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる						排尿の一定化が見られる 保育者と一緒に手洗い等をする 定時排泄への導入(促されて行く)						オムツがぬれた 自分からトイレ オムツをはずし									
		睡眠	3回寝をする 各自の睡眠のリズムに応じて寝たり起きたりを繰り返す 夜間の睡眠が安定し、昼夜の区別がつく						2回寝をする 生活のリズムが一定化してくる						1回寝をする 安心して眠る 就寝のリズムが一定化してくる 自分の布団に歩いて向かう									
着脱	上着を脱がせてもらい薄着で眠る 目覚めた時汗を多くかいていたなら下着をとりかえてもらう 汚れたら新しい衣服に着替えさせてもらう						保育者の支援のもとズボンやパンツを自分で脱ごうとする 必要な時カラー帽子をかぶろうとする 必要に応じ自分の靴を出す 靴を脱ぐ						着替えさせようとする 簡単な衣服の着脱を自分でしてみようとする 靴下を脱ぐ 靴を履かせてもらう											

しかしあくまでも目安であり、達成目標ではないことに留意し、年齢ごとのねらいをふまえ、個々の発達に添ってどうサポートしていくのかを探り、個別の指導計画を立てる時の基準になるようにする。

2歳

- 安心できる保育教諭との関係の下で、日常生活に必要なおおよそのことを自分でしようしたり、自分でできる喜びを感じる。
- 保育教諭と一緒に、全身や手や指を使う遊びを楽しむ。
- 身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊ぶ楽しさを味わう。
- 身近な物や、自然を見たり、触れたり、話を聞いたりして興味や関心をひろげる。

- 保育教諭を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。
- 保育教諭と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。
- 興味のあることや経験したことなどを、生活や遊びの中で保育教諭と共に好きなように表現する。
- 楽しんで食事、間食をし、食事のマナーを身につける。

2歳						2歳6ヶ月						3歳	3歳6ヶ月	
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37～	43～	47
						味の違いに気付き、楽しんで食べる						友達と一緒に楽しく食事をする		
						自分で口を拭く						自立して自分で食べられる		
スプーンですくって食べる(移行待ち)						握り箸で食べる						箸を使って食べる		
						食器を運んだり、食事の後片付けができる								
排泄後手を洗えるようになる						トイレで排尿したことを知らせる						男子用便器の排尿に慣れていく		
ことを知らせる						自分からトイレに行くことができ 成功の回数が増える						パンツを全部脱がずにおろして排泄ができる		
に行き始める														
パンツになる						排尿のあと少しの助けで紙を使い、水を流す								
大人にふいてもらう														
						自分の布団に入って静かに横になる								
						保育者に見守られながら眠りこく								
						安心して一定時間眠る								
						自分から布団に入り布団をかける								
						早く目覚めても布団の中で休んでられる								
パンツ・ズボンを自分で脱ぐ						パンツ・ズボンをはく						自分で着替えられる		
大きなボタンをはずす						自分で着替えようとする						カラー帽子をかぶる		
チャックの開閉ができる						ボタンをはずす						衣服をたたみ、片づける		
マジックテープ、スナップをとめたりはずしたりする						かかとを合わせて靴下をはく						衣服の前後表裏がわかってくる		
						自分で靴をはくが、左右がわからぬ						後ろへ手を回しパンツを引き上げて履く		
助けられて靴をはく												ボタンをはめる		
												靴がはける		
												指摘されたら直す		

0・1・2歳児

月齢	6ヶ月						1歳						1歳6ヶ月											
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
子どもの発達を支援する内容	衛生																							
	理解																							
	言語																							
コミュニケーション																								
人間関係																								
<p>身体の清潔の快・不快が分かり、泣いたり喜んだりして示す</p> <p>汚れている時タオルで顔を拭いてもらう</p> <p>声かけによって手洗い等ができる</p> <p>嫌がらずに手・口を拭いてもらう</p> <p>汚れに気付き、汚れた足を洗ってもらう</p> <p>助けをかりてタオルで顔を拭く</p>																								
<p>見えないものの存在を理解して、かくした物を探す</p> <p>探索活動が活発になり、物の名前や意味に興味をもつことがさかんになる</p> <p>身についた生活習慣により見通しをもって行動し始める</p> <p>丸・三角・四角がわかる</p> <p>冷たさや熱さがわかる</p>																								
<p>泣くことで不快・不安を知らせる</p> <p>共鳴動作があらわれる</p> <p>あやされると微笑む</p> <p>泣く・笑うなどの感情表現をする</p> <p>喃語がしっかり出る</p> <p>たそがれ泣きをする</p> <p>あやされると声を上げて笑う</p> <p>禁止を理解する(制止の言葉かけに対し、反応する)</p> <p>大人の言葉を真似る</p> <p>欲しい物を声を出して意思表示する</p> <p>連続音の喃語(ブーブーなど)が出る</p> <p>単語が出始める(マンマ・ワンワンなど)</p> <p>動作の模倣をする</p> <p>指差して思いを伝えようとする</p> <p>指差して要求する</p> <p>友だちや保育者の名がわかり、指差しする</p> <p>見立てあそび、再現あそび、ひとりあそびをする</p> <p>感情の表現が豊かになる</p> <p>人に関心を持って模倣が豊かになる</p> <p>言葉の模倣が増える</p> <p>喃語の中に意味のある発語が増える</p> <p>言語を使って要求する(2語文程度)</p>																								
<p>大人の顔を見ると微笑み、いなくなると泣く</p> <p>抱かれると泣き止み、安心した表情をする</p> <p>3ヶ月微笑(顔の形に微笑む)</p> <p>人見知りをする</p> <p>後追いをする</p> <p>人をしっかりと見る</p> <p>見慣れない人を見ると泣く</p> <p>保育者と物のやり取りを楽しむ</p> <p>自分によく関わっている人を認識する</p> <p>人に関心を持って、模倣が豊かになる</p> <p>自分の物がわかる</p> <p>欲求を体で表し、押し通そうとする(だだをこねる)</p> <p>保育者と一緒に友だちと関わって遊ぶ</p> <p>友だちに向けた行動(抱きつく・上に乗る)</p> <p>自分の物と人の物との区別ができる</p> <p>けんか・かみつきが多く見られる</p> <p>「自分で」と主張する</p> <p>友だちに関心を持ち、手をつなごうとする</p> <p>指差ししながら相手を見る、交流の指さしをする</p> <p>名前を呼ばれると返事をする</p> <p>自分によく関わっている人を認識する</p> <p>人見知りが強くなる</p> <p>見慣れない人を見ると泣く</p> <p>特定の人のあやしに反応する(母音・子音(ブー・ウー))</p> <p>自分の名前がわかり呼ばれると振り向く</p> <p>叱られたことが分かり始める</p> <p>親しい人に自分から手を出して抱かれようとする(母親や特定の人の顔を見分けられる)</p> <p>欲求を視線や発声、表情に変化で表現する</p> <p>平面的な顔の絵に笑わなくなる(社会的微笑)</p>																								

2歳						2歳6ヶ月						3歳	3歳6ヶ月		
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37~	43~		47
ぶくぶくがいを する									手のひらをこすり 合わせて手洗いをし ようとする				手洗いの自立		
自分から手を洗っ たりタオルで拭け るようになる									石鹸で手洗いを する			がらがらがいがい をする	両手を合わせて水 を切り、手を拭く		
鼻を知らせて拭い てもらおう時促さ れてかむ									鼻を自分で拭 く			鼻を自分でか む	手洗いの一連の作 業が自然にできるよ うになる		
たらいに足を入れ て洗う												足をすり合わせて流 水で洗う			
簡単な生活のきまり がわかる													抽象概念が確立す る		
3原色(赤・青・黄) がわかる									簡単なルールを理 解して遊ぶ				現在、過去、未来 がわかる		
模倣力が高まり、言 葉の真似が増加す る									順番を待てるよう になる・生活の決まり を守ろうとする				“どうして”をくり 返して知識を増やし ていく		
									性別が分かり始め る				貸し借り・順番・交 代ができ、約束・依 頼・説得がわかる		
									想像して絵を描くこ とができる				ジャンケンがわか り始める		
									大小・長短などの 対概念の理解がで きる			順番を待てるよう になる			
ことばが爆発的に増 え2語文を話すよ うになる													ぼく、わたしなどの 1人称をつかい「じ ぶんで」「ひとりで 」という		
自我が芽生える(何 でも自分でしたい)									自我が拡大し、反 抗が表れてくる				自分の行動を正当 化できるようになる		
自尊心が芽生える									多語文、従属文を 話す						
大人からの長い言 葉がけを理解し行 動する									物事の因果関係が わかる文章を話す (理由を説明する。～ だから・・・)				物や人に対して好 き嫌いが出てくる		
「なんで?」「どう して?」と納得する まで聞く(理屈を求 める質問期)													身近な大人の言動 を観察し、ごっこ遊 びのなかで再現する		
2つの内容で構成さ れる長い言葉がけ を理解できる									気の合う友達と遊 ぶ(友だち関係の成 立)				言葉を使ってコミ ュニケーションをと る(「いれて」「か して」などの使い 方を身につけてい く)		
会話に自分の名前 をいれて要求を表 現するようになる									我慢することができる						
									仲介があれば友 だちと一緒に遊ぶ						
									簡単な伝言がで きる						
													困った時に大人 に助けを求めらる ことができる		
自己主張が強くなる (「イヤ」・自我の 拡大)															
自分と他者を明確 に分け始める									保護者や友だちの 話を聞こうとする				保護者や友だちの 話に興味をもって 最後まで聞く		
自分の物・場所が 明確になる													他者と自分の認 識が明確になる		
自分の物に執着す る									取り合いに自己 主張してから解決 する						
物や人のとりあい が頻繁に起こる															
									気の合う子や気 にかかる子ができ 、関わって遊ぶ						
													好きな友だちと 遊ぶ		
友だちの名前を呼 ぶ									社会的ルールの中 でのけんかをする				自分からあいさ つしようとする		
他者との共感を求 める (褒められることを 喜ぶ) (「見てね」)									自分と相手の強 弱関係がわかる						
体験と指導をとお して自己コントロール ができる									並行遊びをする						
									ごっこ遊びをする (道具を媒介した)						
									思い通りになら なくても気持ち が切り替えらる る						

0・1・2歳児

月齢		6ヶ月										1歳						1歳6ヶ月											
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24					
子どもの発達を支援する内容	運動	粗大運動	反射活動 ・把握反射 ・モロー反射 ・非対称性反射						寝返りを繰り返ししながら移動する			つかまり立ちをする																	
			欲しい物に手を伸ばす 首がすわる 寝ていて自由に頭の向きを変える 手に持った物を舐めて確かめる 手と目の共応ができる 左右、上下180度の追視ができる					ずり這い→四つ這い→高這い おすわり完了 伝い歩きをする お座りの体勢から立ち上がる うつぶせにする と胸のあたりから肩をそらせる 寝返りをする ひとりで寝転んだり、起き上がったりする 支えてやると立ち姿勢ができる 腹ばいをする・お腹を軸にぐるぐるまわる					一人歩きができる 物を持ったまま立ち上がる ボールを上手で投げる 戸の開け閉めができる							布団に足から入るすべり台を足からすべる(目標に合わせて方向転換する)							小走り 物をしゃ 低い段差から		
	巧緻運動	親指が開いてくる 持たせるとガラガラやおしゃぶりなどを少しの間握っていたり、口へ持っていく				指が開き、わし掴みができる 物を持ち替えることができる 指先を使って小さな物を掴む おもちゃを見せると手を出してつかむ					クレパスでなぐり書きをする 積み木を3つ以上積む スプーンが使える 色々なものを出したり入れたりする ドアや引き戸などを開けたり閉めたりする 容器から容器へ移しかえる 物を落とすことを楽しむ 物を押ししたり引いたり、ボールを転がしたりする							物を何かに ピンのふた チョコキ シールを貼ったり剥がしたりする 水道の蛇口をひねる ブロックをはめる 絵本のページを1枚ずつめくれる 手製粘土を手の平で転がしたり、ちぎったりする ボールを投げたり、追いかけてたりする											
表現			「見つけた」という表情が出てくる						スクリブルを始める 振る、打ち合わせる等の行動で音を出して楽しむ 興味のある物を見て、指差して喜ぶ					手を左右往復したり、上下に動かして描く 真似て歌おうとしたり手をたたいたり、全身でリズムを取る ブロックをつないだり外したりする							感情表現が豊かになる 曲線的に弧を描くようになる 曲がってしまうが線を描こうとする 簡単な歌を聞いたり歌ったり							斜めの往復が描ける 円が 円錐や縦方向の線が描ける 描いた物に意図的に意味づけする 粘土を変形	

2歳						2歳6ヶ月						3歳	3歳6ヶ月		
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37～	43～		47
歩行が確立し、かなり長い距離を一人で歩くことができる またぐがむ ジャンプする 相手に合わせて力をコントロールする						両足とびができる 全力で走る スムーズに止まる 三輪車を蹴って進む						片足立ちをする	遠歩きができる(約1km) 短い距離を並んで歩くことができる 目的に向かって走ることができる 連続両足とびができる つかまって片足とびができる		
抽象的なこと(早く・遅くなど)の意味がわかり始める その場跳び(1回)をする 開脚して股のぞきができる 指示に合わせて動作をおこなうことができるようになる						1段毎に足をそろえながら手すりにつかまらずに階段の上り下りができる 色々な遊具を使って、簡単な運動遊びができる(ぶらさがる、よじ登る、とびおりの)							交互に足を出して、階段の上り下りができる		
見立てて遊ぶ を開ける 出せる どの指も自由に動かせるようになる 描画で○がとじる 縦・横・十時の線を描く 積み木を5～6個積み上げられる スプーンの持ち方を「移行持ち」に切り替える						指で3をあらわす グーパーを繰り返してできる ボールを片手で投げる ボールを蹴ることができる はさみを使い始める(1回切り)							箸を使って食べる ボタンのはめはずしができる はさみを使って切る(連続切り)		
描ける 小さい円を閉じて描く 紙を前後に破る して、手遊びを楽しむ させることができる・粘土ペラを使う						大小の円・長短の線・十字などの表現が豊かになる 「～のつもり」と意図を持って描いたり描いた物を見立てる 物を使って見立て遊びをする 友だちと一緒に歌うことを楽しむ 紙を折って遊ぶ のりをつけて貼る						描いた物に意味づけする 目・鼻・口を描く 円と線をかき分ける	色々な素材を使って遊ぶ 身近な人を描き分ける 頭足人を描く 簡単なリズム打ちをする リズムカルに動く 対称の折り目をつける 素材の表裏・上下・前後が分かる 粘土で2次元の顔を作る ハサミを連続で動かして形を切る		

0・1・2歳児

月齢	6ヶ月						1歳						1歳6ヶ月										
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
環境	色や音に反応し、がらがらを振るなどおもちゃで遊ぶとする						安心できる保育者のもと、身近なものに興味・関心をもち、見たり触れたりする						季節に応じた身近な自然物や生き物に異年齢の交流や、ふれあいの場に参加する										
子どもの発達を支援する内容	保育者との温かい関わりの中で愛着関係を築く						歩くことを楽しむ イメージしたものを遊具などで見立てて遊ぶことを楽しむ						様々なものに興味を示し、探索活動を楽しむ中で、「自分が行きたいところに行ける」という満足感を味わう										
	遊び(遊びの例)	腹這いを促す遊び	寝返りを促す遊び	ずり這いを促す遊び	四つ這いを促す遊び	おすわりを促す遊び	歩くを促す遊び	操作的遊び	運動遊び	操作的遊び	運動遊び	操作的遊び	運動遊び	操作的遊び	運動遊び	操作的遊び	運動遊び	操作的遊び	運動遊び	操作的遊び	運動遊び	操作的遊び	運動遊び
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○情緒的に安心できるよう食事や睡眠などの生理的欲求を十分に満たす。 ○保育教諭と子どもが1対1で関わることを大切にし、話しかけやスキンシップの機会を十分に持つ。 ○保育教諭に見守られながら、安心・安全に色々な動きができるスペースを十分に確保する。 ○五感を十分に働かせて、それらを認識していく活動が経験できるように準備する。 						<ul style="list-style-type: none"> ○情緒が安定し、安心できる環境で、のびのび成長できるよう、0歳児に引き続き「1対1」で保育教諭が「応答的な関わり」を心がける。 ○危険なものは取り除き、思う存分探究心や集中力を満たす活動力ができる安全な環境を整える。 ○子どもの行動の先取りは避け、子どもが興味をもっている事や、何をしたいのかを見極めて準備をする。 ○互いの存在に興味をもち、子ども同士の関わりが出てくる中で他害行為が見られることがあるが言葉による気持ちの表現に置換していけるよう介入準備をする。 																
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○入園以降の流れのなかでその時期に応じた保護者の不安や疑問に適時応じながら、育児に対する見通しをしっかりと伝え、保護者との相互の理解を進めることを心がける。そして、子どもの成長を共に考え、ともに喜びあえる育児の良いパートナーシップを築いていくことを心がける。 ○特に3歳未満時の精神的・身体的発達はめざましいものがあり、それに応じた基本的な生活習慣の定着、人関係の豊かさの伸び、環境へのかかわりの力の伸びなどをしっかりと支える時期にあり、家庭との連絡を密に取り、園と家庭での関わりを並行させることができるよう、保護者を支えていく。 																						

2歳						2歳6ヶ月						3歳		3歳6ヶ月		47
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37～	43～		
興味をもち、見たり触れたりする												季節ごとの身近な自然物に興味をもち、遊びに取り入れようとする				
												絵本や紙芝居・手遊びなど、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ				
簡単な身の回りのことを自分でしようと、「できた」という満足感を味わう												ごっこ遊びを楽しむ				
探索活動がさらに活発になり、自分がしたい遊びに集中して取り組む																
※再現・世話遊びを豊かに						※素材・玩具を豊かに(見立て遊び)						※一人遊びを大切に ※気の合う友だちと一緒に遊ぶ				
運動遊び						運動遊び						運動遊び				
・散歩・道草・すべり台・ボール・平均台・はしご ・肋木・鉄棒・四輪車(足蹴り三輪車) ・水遊び など						・散歩・道草・すべり台・ボール・平均台・はしご ・肋木・鉄棒・三輪車・フープ・水遊び など						・歩く・走る・跳ぶ・ボール・鉄棒・ジャングルジム・ブランコ・すべり台 ・巧技台・平均台・マット・三輪車・フープ・スクーター・体操・プール など				
操作的遊び						操作的遊び						操作的遊び				
・ひも通し(プラスチック・木製・花おはじき) ・筒落とし・型はめ(大小・多様な形) など						・スナップ絵本・ボタン絵本・カットホース ・ひも通し・パズル・パズルBOX など						・はさみ・のり・折り紙・パズル・ひも通し・ペグさし・粘土 など				
構造的遊び						構造的遊び						構造的遊び				
・積み木・重ねカップ・カットホース・お手玉 ・ブロック・箱・洗面器 など						・積み木・カットホース・お手玉 ・ジュニアブロック・箱・絵カード など						・積み木・カプラ・#型ブロック・パズル・ひも通し・レゴブロック ・ドミノ など				
再現遊び・世話遊び						世話遊び・役割遊び						役割遊び				
・人形・ハンカチ・布・引き出し・布団・エプロン ・カバン・ままごと・おんぶひも・三角巾・ぬいぐるみ・タオル・皿・コップ・スプーン・包丁・お玉・まな板・しゃもじ・フォーク・フライパン・鍋・食べ物 など						・人形・人形の服・物干し・洗濯ばさみ・布・アイロン布団・タオル・エプロン・三角巾・乳母車・カバン・リュックサック・おんぶひも・ままごとセット・お医者さんごっこ・お店屋さんごっこ・散髪屋さんごっこ など						・簡単なルールのある遊び(しっぽ取り・イス取りゲーム) ・ままごと・ごっこ遊び・劇遊び など				
造形的遊び						造形的遊び						造形的遊び				
・砂・水・紙・布・チェーンリング・小麦粉粘土・米粉粘土・水性サインペン・洗濯ばさみ など						・砂・水・紙・折り紙・布・チェーンリング・小麦粉粘土・米粉粘土・水性サインペン・洗濯ばさみ・ひも など						・描画・工作・砂・泥んこ など				
												自然・食育遊び				
												・虫、小動物に触れる・虫、小動物を飼う・植物の栽培・食事の手伝い など				
												知的・認識遊び				
												・カルタ・モザイク・ことばあそび など				
												言語遊び				
												・絵本・紙芝居・なぞなぞ・しりとり・言葉集め・劇遊び・わらべ歌 など				
												音楽リズム遊び				
												・手遊び・歌遊び・わらべ歌・リズム運動・体操・楽器 など				

- 「自分でしたい」という意欲を十分に受け止め、子どもが自分でできる方法や物を可能な限り、準備する。その上で必要に応じて援助していく。
- 自我の芽生えとともにケンカも増えるが、生きていく上で必要な人間関係力を学ぶ機会をとらえ、タイミングを図って、介入し、友だちとの関わり方を丁寧に知らせていく。
- 友だち関係、行動範囲ともに広がりを見せるため。安全面には十分注意する。
- 異年齢クラスや地域との交流を図るなど、人間関係や生活の場を広げる活動を取り入れる。

- 地域特性、季節の変化などに伴い、伝統行事や季節の遊びに親しむことの大切さを伝え、園行事の意味を理解してもらい、その参加を勧めると同時に、家庭においても同様の経験をし親子のつながりを深めることができるように伝えていく。
- 児童の健康・安全に配慮することの大切さを伝え、時期に応じた衛生情報や家庭での配慮に伝え、家庭と連携を保つ。

2・3・4・5歳児カリキュラム

〔 集団活動の中で培われる学びを
観点とするカリキュラム 〕

5 歳児カリキュラムについて

「内容」及び「環境構成・援助」の欄には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「養護」に当てはまる項目を下記の記号で示しています。

- 1 健康な心と体 … ④
 - 2 自立心 … ⑤
 - 3 協同性 … ⑥
 - 4 道徳性・規範意識の芽生え … ⑦
 - 5 社会生活との関わり … ⑧
 - 6 思考力の芽生え … ⑨
 - 7 自然との関わり・生命尊重 … ⑩
 - 8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 … ⑪
 - 9 言葉による伝え合い … ⑫
 - 10 豊かな感性と表現 … ⑬
- 養護… ⑭

2歳児

※低月齢児：10月～3月生まれ ※高月齢児：4月～9月

期	I期（低月齢児）	I期（高月齢児）	II期（低月齢児）	II期（高月齢児）
月	4～5月		6～8月	
姿	<ul style="list-style-type: none"> ○登園時、不安な表情の子どももいるが友達や保育者と関わり遊んでいく中で、安心した表情になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい部屋で生活の流れに戸惑う子どももいるが、周りの友達の様子を見たり自分で考えて行動しようとする姿も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一日の生活の流れが分り意欲的に過ごす。 ○喜んで手洗いをしますが、水や石けんの感触を楽しみ、遊びになってしまうこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と遊ぶ中で自我のぶつかり合いが、見られるようになる。 ○簡単な身の回りの事を自分でしようとする。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者との安定した関わりの中で自分の思いを受け止めてもらい、安心して自分の気持ちを表す。 ○保育者と一緒に好きな遊びや場所を見つける。 ○自然物や身近な物を見たり触れたりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者との安定した関わりの中で自分の思いを受け止めてもらい、安心して自分の気持ちを言葉や態度で表す。 ○好きな遊びをみつけてのびのびと全身を使って遊んだり、自然に触れたりする楽しさを味わう。 ○何でも自分でやってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水や泥んこ、プールあそびをたっぷり楽しむ。 ○自分の思いをことばで伝えようとする。 ○保育者に見守られながら好きな遊びをしたり、仲立ちをしてもらいながら、気の合う友達と遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏のあそびを十分に楽しみ開放感を味わう。 ○保育者に見守られながら好きな遊びをしたり、気の合う友達と遊ぶことを楽しむ。
健康	<ul style="list-style-type: none"> ○手づかみで食べたり、こぼしながら給食やおやつを喜んでたべようとする。 ○促されて、トイレに行く。 ○自分の布団で安心して眠る。 ○パンツ、ズボンを自分で脱ぐ。 ○自分から手を洗ったりタオルで拭いたりする。 ○戸外でのびのびと身体を動かして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた雰囲気の中で友達と一緒に食事を食べる。 ○トイレで排尿したことを知らせる。 ○自分の布団で静かに横になる。 ○靴が自分ではける。 ○ブクブクうがいをする。 ○ボールで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スプーンで上手にすくって食べる。 ○排便後、大人に拭いてもらう。 ○安心して、一定時間眠る。 ○自分で着替えようとする。 ○自分から手を洗ったりタオルで拭いたりする。 ○歩いたり、走ったりすることがしっかりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○食器を運んだり食事の後片付けができる。 ○保育者に見守られながら眠りにつく。 ○大きなボタンをはずしたりはめたりする。 ○鼻汁を促されてかむ。 ○両足をそろえて少し前へ飛び出す。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境や保育教諭に親しみをもち、安心して過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境や保育教諭に親しみをもち、安心して過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭に気持ちを受け止めてもらいながら、友達と関わって遊ぼうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭に気持ちを受け止めてもらいながら、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭に手伝ってもらいながら、簡単な身のまわりのことを自分でしようとする。 ○春の自然に興味を持ち、草花や虫に親しみをもち、草花や虫に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭と一緒に、簡単な身のまわりのことを自分でしようとする。 ○春の自然に興味を持ち、草花や虫に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏ならではの遊びを楽しむ中で、水・泥・砂の感触を味わう。 ○色に興味をもち、様々な色の名前を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏ならではの遊びを楽しむ中で、水・泥・砂の感触を味わう。 ○色に興味をもち、様々な色の名前を知る。

2 歳児

Ⅲ期（低月齢児）	Ⅲ期（高月齢児）	Ⅳ期（低月齢児）	Ⅳ期（高月齢児）	期
9～12月		1～3月		月
<ul style="list-style-type: none"> ○自分でできる事に喜びを感じ身の回りの事を自分でしようとする意欲が高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気の合う友達と一緒にいろいろなごっこ遊びを楽しむ。 ○運動機能が発達し身体を動かして遊ぶようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉が豊かになり、友達や保育者との会話を楽しむ。 ○友達との関わりが、活発になり、ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣が身につき進級への期待をもって生活している。 	姿
<ul style="list-style-type: none"> ○戸外あそびや散歩を通じてのびのびと全身使って遊んだり自然に触れたりする楽しさを味わう。 ○秋の自然（虫や落ち葉、木の実など）に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの中から行事への期待や意欲を育て、自分なりの表現を楽しむ。 ○友達や保育者と一緒に全身を使った遊びを楽しむ。 ○秋の自然（虫や落ち葉、木の実など）に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○ごっこ遊びや見立て遊びを通して、言葉のやり取りをしたり、喜んで友達や保育者と関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○季節の行事を楽しむ。 ○友達や異年齢児との関わりをもち、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○ごっこ遊びや見立て遊びを通して、言葉のやり取りをしたり、喜んで友達や保育者と関わろうとする。 	ねらい
<ul style="list-style-type: none"> ○自分から布団に入る。 ○上の服を一人で脱ぐ。 ○石鹸で手洗いをする。 ○戸外でのびのびと身体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○目的に向かって歩くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分からトイレに行くことができる。 ○早く目覚めても布団の中で休んでいられる。 ○鼻汁を自分で拭く。 ○短い距離を並んで歩くことができる。 ○歩いたり走ったりして、動きを止めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スプーンのえんぴつ持ちができる。 ○だいたい漏らさない。 ○自分から布団をかける。 ○ボタンをはずす。 ○長い距離を歩くことができる。 ○生活の流れを理解して、自分から睡眠に向かう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○にぎり箸で食べる。 ○排泄の後少しの手助けで紙を使い水を流す。 ○自分から睡眠に向かう。 ○手のひらをこすり合わせて手洗いをしようとする。 ○交互に足を出して階段の登り降りができる。 ○食事の際、量を調節しておくことにより完食でき、おかわりをしようとする。 	健康
<ul style="list-style-type: none"> ○友達との関わりを広げ、気の合う友達と遊ぶことの楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2～3名の気の合う友達と一緒に、ごっこ遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なルールのある遊びに興味を持ち、友達と一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。 	人間関係
<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然に興味を持ち、葉っぱや木の実などを集めたりする中で、大小・長短など形の違いに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然に興味を持ち、葉っぱや木の実などを集めたりする中で、大小・長短など形の違いに気付く。 ○興味や関心が広がり、意図をもって物に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外遊びをする中で寒さや雪、霜など冬の自然に触れて遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外遊びをする中で寒さや雪、霜など冬の自然に気づき、友達や保育教諭に伝えたり、触れて遊ぶことを楽しむ。 	環境

2歳児

※低月齢児：10月～3月生まれ ※高月齢児：4月～9月

期	I期（低月齢児）	I期（高月齢児）	II期（低月齢児）	II期（高月齢児）
月	4～5月		6～8月	
言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の意味が理解できるようになり、自分の思いを言葉や態度、指差しなどで伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○したいことしてほしいことを言葉や態度で伝える。 ○「なに?」「なんで?」など質問をたくさんして、やりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭や友達との関わりの中で簡単な言葉のやり取りをする。 ○簡単な挨拶を、保育教諭と一緒にしようとする。 ○大人の言葉の意味を理解し、行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な挨拶を覚え、進んで挨拶する。 ○言葉の数が増え、友達や保育教諭とのやりとりを楽しむ。
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭や友達と一緒に、簡単な歌や手遊びを、聞いたり歌ったりする事を楽しむ。 ○ちぎる・丸めるなど指先を使った遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に歌うことを楽しむ。 ○保育教諭に見守られながら、クレパス・のり・ハサミ等を使って遊ぶ楽しさを味わう。 ○簡単なごっこ遊び・見立て遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な素材の感触を楽しむ。 ○保育教諭と一緒に、クレパス・のり・ハサミ等を使って遊ぶ楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な素材の感触を味わい、指先を使って遊ぶ。 ○クレパス・のり・ハサミ等を使って楽しんで表現する。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日同じ流れで生活するようにし、ゆったりとした生活の中で少しずつ身の回りの物の使い方がわかるようにする。 ○前年度の遊び慣れた玩具や遊びが継続できるように整える。 ○子ども自身で遊びを見つけられるよう、玩具の量・種類・内容に配慮する。また、1人～少人数で遊べる空間を確保する。 ○手遊びや運動遊びを楽しむ中で、個々の発達・感覚・関心に応じた働きかけをする。 ○個々の健康状態に配慮しながら、徐々に2歳児クラスの生活リズムに導いていく。 ○「自分で」という気持ちを大切に、出来たところは共に喜び、見守ったり・手伝ったりしながら意欲につなげていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ○個々の健康状態と湿度や気温に配慮して、活動と休息のバランスを取る。水分補給の準備をする。 ○水遊び・プール遊びの際、危険がないよう十分に留意する。 ○砂・水・感触遊び等の際は、全身で思い切り楽しめる遊びを取り入れ、興味が持てるようにする。苦手な子どもには、直接触れなくても楽しめるよう配慮し、他の取組を工夫しつつ、気持ちにより添って一緒に楽しむ。 ○様々な素材を準備し、子どもたちが色・形・大きさ・感触の違いに気付き、整理しながら一人一人がじっくり遊びこめるよう時間・環境を準備する。 ○自分でやろうとする気持ちや、甘えたい気持ちを十分に受け止め、状況を見極めながら一人ひとりの様子に応じた対応をする。 	
家庭・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に対する不安や期待に共感しつつ、子どもの様子を共有し信頼関係を築き、共に子育てをしていくという意識が育まれるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自我の育ちや自己主張の育ちの過程を共通理解していく。 ○夏を元気に過ごせるよう、健康状態について密に連絡を取る。 	

2 歳児

Ⅲ期（低月齢児）	Ⅲ期（高月齢児）	Ⅳ期（低月齢児）	Ⅳ期（高月齢児）	期
9～12月		1～3月		月
<ul style="list-style-type: none"> ○したいことしてほしいことを言葉や態度で伝える。 ○絵本や紙芝居、手遊びなど、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思ったことや感じたことを言葉で表現し、やり取りを楽しんだり相手の思いに気付いたりする。 ○「ありがとう」「ごめんね」「いいよ」などの言葉のやり取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりに思ったことや感じたことを表現し、やり取りを楽しんだり相手の思いに気付いたりする。 ○生活の中で、言葉のやりとりの楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や遊びの中で経験したことを保育教諭や友達に言葉で伝え、やり取りを楽しむ。 ○自分の思いを、自分なりの言葉で相手に伝えようとする。 	言葉
<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なごっこ遊び見立て遊びを楽しむ。 ○簡単なダンスをしたり、保育教諭や友達と曲や歌に合わせて身体表現を楽しむ。 ○友達と一緒に喜んで歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に合わせてリズムカルに動く事を楽しむ。 ○様々な素材を使って表現活動を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きな絵本やお話の登場人物になりきって遊ぶ。 ○クレパス・のり・ハサミ等を使って楽しんで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きな絵本やお話の登場人物になりきって遊ぶ。 ○身近な素材や用具を使い、描いたり・切ったり・作ったりすることを喜び、自分がイメージした物を表現しようとする。 	表現
<ul style="list-style-type: none"> ○様々な自然に触れたり、季節の移り変わりを感じられるよう、身体や感覚を刺激する。 ○身体を動かすことの楽しさや心地よさが味わえるように、安全に留意しながら遊具を設置する。 ○保育者が仲立ちとなり、遊びが個から集団へと広がっていくよう援助する。 ○生活習慣は日々の積み重ねを大切にし、くり返し声を掛け励ますことで習慣づけていく。 ○体調や気候に合わせて、衣服の調節をしながら、薄着の習慣をつける。 ○絵本やごっこ遊びを通し、言葉を使う経験を豊かにし、友達との関わりが広がるように援助する。 ○ごっこ遊び・見立て遊びが豊かになるような遊具を準備する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○室内の温度・湿度に配慮し、快適に過ごせるようにするとともに、室内外との寒暖差も感じながら、冬の過ごし方を伝える。 ○基本的な生活習慣の自立に向け、個人差はあるものの、できるようになったことを一緒に喜び、さらに自信を持てるようにする。 ○異年齢との関わりや、幼児クラスで遊ぶ環境を設定する。 ○冬ならではの自然に触れられる機会を大切にする。 ○絵本やお話を通して、イメージが膨らむ遊びに共感し、言葉のやりとりの中でさらにイメージが広がるように援助する。 ○子ども同士のやりとりを大切に受け止めながら、相手の思いや気持ちに気づけるよう保育教諭が代弁しながら関わりを深めていく。 		環境構成・援助
<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣について、子どもができることや自らやろうとしている意欲を共有し喜び合うと共に、見守る姿勢の大切さに気づけるよう伝えていく。 ○園の行事について伝え、参加を呼びかけるとともに子どもの成長の様子を共に喜ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○一年間の成長を振り返り、認め合い喜び合いながら保護者の気持ちにより添い、進級への期待が持てるようにする。また、子ども一人一人の発達課題も共有し、育ちの見通しが立つようにする。 ○冬の生活習慣・健康について留意していけるよう知らせる。 ○感染症の発生状況などを伝える。 		家庭・地域との連携

3 歳児

期	I (新入園時)		I (進級園児)		II (新入園時)			II (進級園児)			
	4 月	5 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	6 月	7 月	8 月	
姿	<ul style="list-style-type: none"> ○初めての園生活で不安がる子がいる。 ○保育者に手伝ってもらいながら身の回りのことをする。 ○保育者のそばで過ごす中で、園の様々な遊具や玩具に興味を示し始める。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進級を喜び意欲的に生活する子がいたり、新しい環境に戸惑い、不安がる子もいたりして、適応の姿に違いがみられる。 ○保育者に進級後の新しい生活の仕方を教えてもらいながら、一緒に身の回りのことをしようとする。 ○新しい環境に慣れ、安心できる場所や好きな遊びを見つけて、保育者や友達と遊ぼうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○初めてのことに戸惑いを示す子もいるが、喜んで登園してくるようになる。 ○園生活の流れに慣れ、見守られながら自分なりに身の回りのことをしようとする。 ○保育者に支えられながら、自分なりの好きな遊びを楽しむ姿が見られる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○園生活の流れに慣れ、自分なりに身の回りのことをしようとする。 ○保育者に見守られながら、友達に気持ちを寄せつつ、好きな遊びを楽しむ姿が見られる。 ○物の取り合いなどのトラブルが多くなる。 			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者と一緒に過ごす中で、親しみや安心感をもつ。 ○保育者と一緒に、身の回りのことをしようとする。 ○園の様々な遊具や玩具に興味をもち、保育者と一緒に安心して遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と一緒に過ごす中で、親しみや安心感、信頼感をもつ。 ○生活の様子がわかり、保育者と一緒に身の回りのことをしようとする。 ○保育者や友達に親しみをもち、自分の気に入った遊びを楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園生活の流れに慣れ、自分なりに身の回りのことをしようとする。 ○保育者に見守られながら、友達と触れ合っ て遊ぶことを楽しむ。 			<ul style="list-style-type: none"> ○園生活の流れがわかり、自分なりに身の回りのことをしようとする。 ○好きな遊びをする中で、保育者や友達との触れ合いを楽しみ、みんなと一緒に過ごす心地よさを感じる。 			
保育内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に手伝ってもらいながら、排泄や手洗いなどをする。 ○園庭の好きな遊具や用具を使って遊ぶ。 ○給食で様々な食材や食べ物に出会ったり、保育者や友達と一緒に食べる雰囲気慣れたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○朝の身支度や排泄などのやり方を知り、保育者と一緒にしようとする。 ○楽しい雰囲気の中で、保育者や友達と一緒に給食やおやつを喜んで食べる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○排泄や着替えなど、保育者に手伝ってもらいながら、自分なりにやろうとする。 ○保育者や同じ遊びをしている友達と一緒に、喜んで戸外で遊ぶ。 			<ul style="list-style-type: none"> ○排泄や衣服の着脱など、自分でできることを自分なりにやろうとする。 ○同じ遊びをしている友達と一緒に、いろいろな遊びの中で体を動かす。 		
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に、自分の気持ちを受け止めてもらい、親しみを感ずる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい担任や友達に親しみをもち、好きな遊びを楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○水分補給や汗の始末など、心地よい生活の仕方を知る。 ○夏野菜を栽培したり、収穫して食べたりして、食べ物に興味を持つ。 			<ul style="list-style-type: none"> ○遊具や用具などの使い方について、簡単なきまりや約束を知る。 ○遊具や用具を友達と交代して使ったりするなど、簡単なきまりや約束を守ろうとする。 		
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○園の遊具や用具に親しみ、安全な使い方を 知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園の遊具や用具の安全な使い方を 知り、使 って遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○梅雨期から夏の自然（雨、雲、暑さなど）を見たり感じたりする。 ○身近な生き物などを、保育者と一緒に見たり世話をしたりする。 ○水、土、砂などの感触、心地よさを楽しみながら遊ぶ。 			<ul style="list-style-type: none"> ○春の身近な生き物や草花を見たり、触れたりする。 		

3歳児

Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ			期
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月
<ul style="list-style-type: none"> ○園生活の流れがわかり、身の回りの始末や片づけなどを自分でしようとする。 ○友達のしている遊びに興味を持ち始め、より活動的になる。 ○友達と気持ちのすれ違いによるトラブルが多くなり、保育者に助けを求める。 ○自分のして欲しいことや見たこと感じたことを、保育者に伝えようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分でできることは増えているが、やり終えずに遊びに移ってしまったり、友達の様子が気になったりする。 ○気の合う友達ができはじめ、自分なりの思いを出し合いながら、一緒に遊びを楽しんでいる。 ○周囲の身近な自然物に目を向け、触れたり、集めたりして遊んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園生活の中で、自分でできることが増え、何でもやろうとする。 ○気の合う友達との遊びをじっくりと楽しんだり、いろいろな遊びに興味をもち、自分から入っていかうとしたりする。 ○進級を楽しみにし、意欲的に生活や遊びを楽しんでいる。 			姿
<ul style="list-style-type: none"> ○生活の仕方がわかり、自分でできることを進んでしようとする。 ○自分から色々な遊びに目を向け、戸外でのびのびと体を動かす心地よさを感じる。 ○同じ場で遊ぶことで、友達との関わりを楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園生活の簡単な約束やきまりを守る大切さを知り、自分のことは自分でしようとする。 ○いろいろな友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを感じながら、自分なりに思いを表現する。 ○秋から冬への自然に触れ、経験したことを取り入れながら遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進級することに期待を持ち、自分で意欲的に何でもしようとする。 ○友達と関わりながら、思ったことや感じたことを、言葉や身体で表現し、イメージの共有を図る。 ○思ったことや感じたことを、言葉や身体で表現しながら、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 			ねらい
<ul style="list-style-type: none"> ○手洗い、排泄、水分補給や持ち物の始末など、生活の流れがわかり自分でしようとする。 ○走ったり、跳んだり、遊具や用具を使ったりして、体を動かす心地よさを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の体を守るために大切な、手洗いやうがい、鼻かみ、消毒などの仕方を知り、自分でしようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園での生活の流れがわかり、自分でできることを喜び、進んでしようとする。 ○寒さに負けず、戸外で体を動かして遊ぶ。 			健康
<ul style="list-style-type: none"> ○友達や保育者と一緒にルールのある遊びを楽しむ。 ○友達のしている遊びに興味を持ち、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○思い通りにならないことを経験しながら、自分の思いと違う人がいることを感じる。 ○異年齢児の姿に興味を持ち、模倣して遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達や保育者と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを表現したり、友達の思いを知ったりする。 ○気の合う友達と話しながら遊ぶ。 ○異年齢児との交流の中で、憧れの気持ちをもったり、競って遊んだりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○やりたいことや思ったことを伝えたり、聞いたりしながら、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 ○自分の思いを出しながら、気の合う友達と話し、共通のイメージを持って遊ぶ。 ○保育者の言葉がけにより、友達の思いに気づく。 			人間関係 保育内容
<ul style="list-style-type: none"> ○秋の虫の興味をもち、見たり捕まえたりする。 ○地域のお祭りなどに見たり参加したりして、遊びに取り入れる。 ○遠足等を通じて、公共でのマナーを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○木の実や木の葉など、身近な秋の自然に興味をもち、集めたり遊びに使ったりする。 ○身近なものの色、大小、形等の違いに気づく。 		<ul style="list-style-type: none"> ○冬の自然現象（雪や氷、空気の冷たさなど）に触れ、体で感じたり、面白さを感じたりする。 ○伝統行事や習慣に触れて遊ぶ。 ○春の日差しの温かさや、草木の芽吹きから、春の訪れを感じる。 			環境

3 歳児

期	Ⅰ（新入園時）		Ⅰ（進級園児）		Ⅱ（新入園時）			Ⅱ（進級園児）		
	4月	5月	4月	5月	6月	7月	8月	6月	7月	8月
保育内容	言葉 ○嬉しいことや困ったことを、保育者に表情や動作で表現する。		○したいことや困ったことを、動作や言葉で自分なりに表現する。		○自分のしたいことやしてほしいことを保育者や友達に言葉で伝えようとする。			○自分の気持ちや、知っているきまりや約束について、言葉で伝えようとする。		
	表現 ○知っている歌を歌ったり、手遊びを楽しんだりする。 ○絵本・紙芝居を喜んで見聞かす。		○身近な素材を使って、かいたり、つくったりする。		○色々な楽器に触れ、のびのびとリズム遊びを楽しむ。 ○粘土や絵の具など様々な素材に触れ、感度を味わったり、かいたり、つくったりすることを楽しむ。			○曲に合わせてリズム打ちをしたり、簡単な身体表現を楽しんだりする。 ○粘土や絵の具などを使って、自分のイメージしたものをかいたり、つくったりすることを楽しむ。		
環境構成・援助	○生活経験の違いや個人差に十分配慮しながら、一人一人の気持ちを受け入れ温かく接することで、安心して過ごせるようにする。 ○毎日同じ流れ、同じ方法で身の回りの始末などを手伝ったり一緒にしたりしながら、繰り返し知らせていく。 ○安心して好きな遊びができるように、遊具や玩具の表示の仕方や配置などを整える。 ○身近な春の自然（小虫や草花など）に触れて一緒に遊んだり、興味を持てるように誘ったりしながら、発見や驚きなどに共感する。 ○子どもの気持ちを受けとめ、自分なりに表現する姿を認める。				○気候や園児の体調に合わせて、着替えや水分補給などを促したり、手助けしたりし、気持ちよく生活できるようにする。 ○一人一人の興味を捉えて、共に楽しく過ごせるよう、遊具や用具の数、遊びの時間や場を確保する。 ○トラブルの際には、お互いの気持ちを受け止めたり、代弁したりしながら、簡単なきまりや約束があることを知らせていく。 ○自分の思いを言葉で伝えようとする姿を認め、代弁したり適切な言葉を知らせたりする。					
家庭・地域との連携	○入園や進級による不安な思いを受け止め、園での様子などを連絡ノートや掲示などで積極的に知らせながら、保護者との信頼関係を築く。 ○一人一人の家庭や園での生活の様子を把握し、個人差に配慮しながら、健康に過ごすための生活リズム作りを進めると共に、個人差に配慮しながら、基本的な生活習慣の大切さを伝えていく。 ○治療中の病気や発育、発達状態を把握し、保護者と連携しながら支援する。 ○子どもの疲れがたまらないよう、帰宅後の生活、休みの日の過ごし方に配慮してもらう。				○基本的な生活習慣について、園でできるようになってきたこと、園での様子や関わり方を伝え、家庭でも並行して行なってもらうよう協力を依頼する。 ○疲れが出やすく、感染症等も流行しやすい時期なので、朝ごはんや睡眠の大切さを伝え、体調管理に留意するよう、家庭との連携を密にする。 ○保育参観などで園での子どもたちの様子を知ってもらい、保育への理解を持ってもらう。					
在園時間の違いに対する配慮	○1号認定児の降園時には、2号認定児の不安を受け止めると共に、保護者が迎える場や導線に配慮する。 ○1号認定児の午後の遊び、2号認定児の午睡がそれぞれに十分にできるように、場を確保する。 ○教育標準時間後は、2号認定児がゆったりと、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように工夫する。 ○＜夏季休業中＞1号認定児には、家庭でも規則正しい生活が送れるように依頼すると共に、園での遊びの様子も知らせる。 ○＜夏季休業中＞2号認定児が、家庭的な雰囲気でも過ごしながらか、地域の行事など多様な生活経験が味わえるようにする。									

3 歳児

Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ			期
9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月
○生活や遊びの中で、自分のしたいことや困ったことを言葉で表現する。		○経験したり感じたりしたことを友達や保育者と話し、言葉のやり取りを楽しむ。		○絵本などのお話の世界に親しみ、イメージを広げ、言葉の面白さを感じながら、やり取りすることを楽しむ。			言葉
○曲に合わせて、ダンスをするなど、体全体を使って表現することを楽しむ。		○曲に合わせてリズム打ちなどをし、楽器を使って表現する楽しさを味わう。		○ごっこ遊びや劇遊びに必要な道具を作ったり、イメージをふくらませながら表現したりすることを楽しむ。			表現
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○身近な素材や自然物を使って、イメージしたものを作ったり、遊んだりすることを楽しむ。</div>							保育内容
○自分でしようとする気持ちを認め、自分でできた満足感や達成感を味わえるように、見守ったり励ましたりしていく。 ○身体を動かす楽しさを感じられるような音楽や用具を準備し、子どもたちが積極的に取り組める環境を作る。 ○友達との関わりが持てるよう、簡単なルールのある遊びなどの内容を工夫する。		○手洗い、うがい、鼻かみなど、健康に生活するために大切なことが身についているか確認したり、気づかせたりする。 ○友達とかかわろうとする姿を見守り、一人一人の気持ちを受け止めて、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを聞いたりできるように仲立ちする。 ○子どもの発想やイメージを大切に、遊びの中で実現できるよう援助する。		○身の回りのことを自分でできるようになった姿を認め、大きくなった喜びを感じ、自信が持てるようにする。 ○寒くても戸外で体を動かして遊べるように、鬼ごっこなどの遊びを取り入れる。 ○友達と言葉のやり取りをしながら遊ぶ姿を認め、思いがすれ違ったときには、相手の思いに気付くよう仲立ちをする。 ○自然現象や季節の変化に気づくように、機会を捉えて知らせたり、触れて遊んだりできるようにする。 ○イメージを共有するために、絵本を繰り返し読んだり、必要なものを作ったりし、みんなと一緒に表現を楽しめるようにする。			環境構成・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○見つけた虫や収集した自然物などを、興味をもって見たり、触れたりすることができるように置いておく。 ○木の実や木の葉など、種類や大きさごとに分けて置いておくなど、違いに気づいたり、遊びに使ったりできるように置いておく。</div>							家庭・地域との連携
○園の行事への積極的な参加を求め、子どもたちの活動や成長の様子を知り、親子の触れ合いの大切さを伝えていく。 ○地域の自然、行事○施設などに関わる機会をもち、多様な人とのふれあいや、体験ができるようにする。 ○行事の取組の様子やねらいを伝え、子どもたちの成長につながっていることを伝える。		○薄着で過ごす大切さを知らせると共に、気温により調節できるように、衣服の用意を依頼する。 ○風邪などの予防のため、手洗いやうがいの習慣が身につくよう、家庭でも配慮していただく。		○感染症について知らせ家庭でも予防を心がけてもらう。 ○お正月遊びや節分などを通して、家族で触れ合ったり、伝統行事に親しむ機会をもったりするように呼びかける。 ○園児の成長を保護者と喜び合うとともに、進級への不安や期待を話し合い、安心して進級できるように配慮する。 ○次年度に向けて見通しを持って生活できるよう確認し合う。			家庭・地域との連携
○夏季休業中の生活経験を共有できるように工夫する。		○家庭や園での生活経験の違い受け止め、互いに刺激しあって経験の幅が広がるような遊びを工夫する。 ○日が短くなる時期には、2号認定児が心細くなることもあるので、安心して過ごせるようにする。					在園時間の違いに対する配慮

4 歳児

期	I (新入園時)		I (進級園児)		II			
月	4 月	5 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	
姿	<ul style="list-style-type: none"> ○期待をもって登園して来る園児、不安な気持ちをもつ園児など初めての集団生活において個人差が大きい。 ○保育者や友達と過ごす中で、少しずつ安心して遊び始める。 ○保育者や進級児に生活の仕方を教えてもらいながら、慣れてくると自分でしようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に戸惑いを感じる子もいるが、進級した喜びや期待を持ち登園し、自分でできることを自分でやってみようとする。一方で、気持ちの高まりから、落ち着かない子もいる。 ○保育者や気の合った友達と一緒に、自分の好きな遊びを楽しむもうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園での生活の仕方が分かり安心できる場となり、持ち物の始末や着替え、給食の準備など、自分でしてみようとする。 ○自分で遊びを見つけられるようになる。 ○友達と関わって遊びを楽しむ姿が見られるが、自分の気持ちが表現できるようになったことで、トラブルが起きやすい。 			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に慣れ、喜んで登園し安心して過ごす。 ○保育者や友達に親しみを持つ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に慣れ、生活の仕方が分かり安心して過ごす。 ○進級の喜びを感じながら、保育者や新しい友達に親しみを持つ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達と触れ合い、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○生活に必要な習慣や態度を身に付けようとする。 ○夏の自然に見たり、触れたり、遊んだりすることを楽しむ。 			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ○生き物や草花など春の自然に興味を持って見たり、遊んだりする。 </div>							
保育内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○身支度などの園生活の仕方を知り、自分でしようとする。 ○様々な食べ物に触れ、保育者や友達と喜んで給食を食べようとする。 ○戸外で体を動かして遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に慣れ、生活の仕方が分かり、自分でしようとする。 ○給食の準備の仕方などを新しい友達に伝えたり、楽しい雰囲気の中で一緒に食べたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園庭でいろいろな戸外遊びを楽しんだり、プール遊びで水に親しんだりする。 ○梅雨期の安全な生活の仕方や夏の健康な過ごし方などを知り、気を付ける。 ○自分の植えた野菜の生長や収穫を楽しみにしながら世話をし、簡単な料理をして食べることを喜ぶ。 		
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達に親しみをもち、一緒に過ごしたり、遊んだりする。 ○園生活に必要な決まりや約束があることを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい担任や友達に親しみをもち、好きな遊びを楽しむ。 ○園生活に必要な決まりや約束があることを知り、新入園児に伝えようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ○友達の遊びに興味を持ち一緒に遊ぼうとする。 		
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○用具や遊具の安全な使い方を知り、それを使って遊ぶ。 ○春の身近な草花や虫などを見たり触れたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○用具や遊具の安全な使い方を知り、それを使って遊ぶ。 ○春の身近な草花や虫などを、興味をもって見たり、触れたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○身近な草花や虫などを見たり、触れたり、集めたりして遊ぼうとする。 ○水・土・砂などの感触を楽しみ、友達とダイナミックに遊ぶ。 ○身近な生き物などを、興味を持って見たり、自分たちで世話をしたりする。 		

4 歳児

Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ			期
9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月
<ul style="list-style-type: none"> ○思い切り体を動かして遊んだり、年長児の遊びを見たりして、活動が活発になってくる。 ○友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむようになるが、園児同士では長続きしない。 		<ul style="list-style-type: none"> ○一緒に遊ぶ友達が決まってきた、イメージを共有して遊ぶ中で、役割を決めたり、やり取りをしたりして楽しんでいる。 ○自分の気持ちを伝え、友達とともに解決しようとするがまともならずトラブルになる。 ○身近なことから、秋から冬への自然の移り変わりに気付く。 		<ul style="list-style-type: none"> ○年長児になるという期待を持ち、生活や遊びの中で、自分から進んで行動し始め、意欲的に取り組もうとする。 ○友達と遊ぶ中で、伝え合ったり、気づいたりして、遊びを進める楽しさが分かってくる。 ○氷や雪など身近な自然に気付く、喜んで見たり、触ったりする。 			姿
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然に興味を持ち、見たり触れたり、遊びに取り入れる。 </div>							
<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なルールのある遊びに興味を持ち、保育者や友達と一緒に体を動かして楽しむ。 ○色々な友達や年長児と関わって遊ぶことを楽しむ。 ○秋の自然に親しみ、興味や関心を持って関わる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな遊びに興味を持ち、友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶ。 ○遊びのルールを進んで守ろうとし、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○秋から冬への自然の変化に関心を持ち、イメージ豊かに遊びに取り入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達とイメージをふくらませて、遊びを進める楽しさを味わう。 ○進級することに期待をもちながら、自信を持って園生活を進めようとする。 ○冬の自然現象や春の訪れに興味を持つ。 			ねらい
<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練、警報、交通安全週間などの意味が分かり、安全に気を付けようとする。 ○友達と一緒に、園庭で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の体や健康に興味や関心を持ち、手を洗ったり、うがいをしたりしようとする。 ○ボールを投げたり、蹴ったり、竹ぼっくりをしたりするなど、体の力を調整して動かそうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○冬の健康で安全な生活に気を付ける。 ○寒さに負けず、戸外で体を動かし、進んで友達と遊ぶ。 			健康
<ul style="list-style-type: none"> ○共同の遊具や用具を大切にし、みんなで準備したり、使ったり、片付けたりする。 ○簡単なルールのある遊びに興味を持ち、友達と一緒に楽しむ。 ○異年齢児の遊びに関心を持ち、見たり、まねたり、試したりする。 ○高齢者や地域の人々に親しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で友達と共に遊びを広げ、意欲的に取り組む。 ○簡単なルールを守って、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○自分の感じたことや考えたことを伝えたり、相手の気持ちに気づいて譲ったりしながら遊ぼうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達とイメージを共通し、役割などを決めて遊びを進める。 ○年長児に憧れや親しみをもち、進級に期待をもつ。 ○自分の思ったことや考えたことを出し合いながら、遊びを進めようとする。 			人間関係
<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然や自然物に触れたり、取り入れて遊んだりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自然の移り変わりや美しさに気付く、自然物を使って、数・量・形・色などに興味を持ち、分けたり、集めたりして遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○雪や氷などの冬の自然現象に触れて遊んだり、草木の芽生え気づいたりして、季節の変化や興味や関心を持つ。 ○いろいろな伝承行事や習慣に興味を持ったり、関心を深めたりする。 			環境
							保育内容

4 歳児

期	I (新入園時)		I (進級園児)		II		
月	4 月	5 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
保育内容	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○してほしいことや困ったことを、保育者に伝えようとする。 ○保育者の話を、興味をもって聞いたり、絵本を読んでもらったりすることを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思ったことを、保育者や友達に言葉で伝えようとする。 ○保育者の話を、興味をもって聞いたり、絵本を読んでもらったりすることを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や遊びに必要な言葉の使い方に気付く。 ○経験した事や感じたことを話し、保育者や友達と会話することを楽しむ。 			
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と手遊びをしたり、歌を歌ったりする。 ○身近にあるいろいろな素材に触れ、自由にかいたり、つくったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と手遊びをしたり、歌を歌ったりする。 ○身近にあるいろいろな素材に親しみ、自由にかいたり、つくったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に合わせて体を動かしたり、簡単な楽器を使ったりして、体でリズムを感じながら、喜んで遊ぶ。 ○身近にあるいろいろな素材や用具の扱い方を知り、自由にかいたり、つくったりすることを楽しむ。 			
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○新入園児と進級園児が触れ合えるよう遊びの内容を工夫する。 ○一人一人の生活経験の違いを考慮し、自分で身の回りのことをしようとする気持ちを支えていく。 ○安心して好きな遊びができるように、遊具や用具の表示や配置などを工夫し、環境を整える。 ○園児と共に遊びながら、興味や関心を把握し、一人一人の気持ちを捉える。 ○身近な春の自然（小虫や草花など）に触れて一緒に遊んだり、興味を持てるように誘ったりしながら、発見や驚きなどに共感する。 				<ul style="list-style-type: none"> ○気候や園児の体調に合わせて、着替えや水分補給などの大切さに気づかせ、気持ちよく生活できるようにする。 ○一人一人の思いが実現できるように、素材を十分に用意した上で、わかりやすく分類したり表示したりし、園児が選べるようにする。 ○トラブルが起きた時には、保育者が話を聞いたり、自分の気持ちが表現できるように援助したりして、相手の気持ちに気付かせていくと共に、周りの園児にも伝える。 ○砂遊び、水遊び、シャボン玉遊びなど、夏ならではの遊びを通して存分に開放感が味わえるように環境を整える。 		
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○入園や進級による不安な思いを受け止め、園での様子などを連絡ノートや掲示などで積極的に知らせながら、保護者との信頼関係を築く。 ○一人一人の家庭や園での生活の様子を把握し、園児の実情に応じた適切な援助をする。 ○非常時の措置と連絡方法を知らせる。 				<ul style="list-style-type: none"> ○保育参観などで園での園児たちの様子を知ってもらい、保育への理解を持ってもらう。 ○梅雨期や夏期を健康に過ごすために、家庭との連携を密にし、健康状態を把握したり、園だよりなどで発信したりする。 		
在園時間の違いに対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○1号認定児の降園時には、2号認定児の不安を受け止めると共に、保護者が迎える場や導線に配慮する。 ○1号認定児の午後の遊び、2号認定児の午睡がそれぞれに十分にできるように、場を確保する。 ○教育標準時間後は、2号認定児がゆったりと、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように工夫する。 ○＜夏季休業中＞1号認定児には、家庭でも規則正しい生活が送れるように依頼すると共に、園での遊びの様子も知らせる。 ○＜夏季休業中＞2号認定児が、家庭的な雰囲気の中で過ごしなが、地域の行事など多様な生活経験が味わえるようにする。 						

4 歳児

Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ			期	
9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月	
○遊びや生活の中で、いろいろな言葉や、数の多少、勝ち負けがあることなどに気づく。		○いろいろな絵本や物語などに親しむ。		○お正月遊びなどを通して、文字や数量に興味を持つ。			言葉	
○いろいろな材料や用具に親しみ、自分なりのイメージをもってかいたり、つくったりすることを楽しむ。 ○音楽やリズムに合わせてダンスを楽しむなど、友達と一緒に表現する心地よさを味わう。		○歌ったり、楽器をならしたり、体を動かしたりしてリズムを楽しむ。 ○絵本やお話を通して、友達とイメージをふくらませ、様々な表現や遊びを楽しむ。 ○いろいろな素材や用具を使って、遊びに必要なものをかいたり、つくったりする。		○友達と共に劇遊びをする中で、遊びに必要な物を描いたり、作ったりして、それを使って遊ぶことを楽しむ。 ○絵本や物語などからイメージを膨らませ、友達と共通のイメージを持って、表現することを楽しむ。			表現	保育内容
○様々な運動遊びに興味や関心が持てるように遊具や用具を準備し、環境を整える。 ○異年齢児との関わりや遊びを広げられるよう、共に活動する時間や場をもつ。 ○園児が言葉で伝えようとする姿を認め、それぞれの思いを受け止めながら、みんなで遊ぶために必要なルールや決まりがあることに気付かせる。 ○体を思い切り動かしたり、音楽やリズムに合わせて全身で表現したりする楽しさを存分に味わえるよう、活動内容を工夫する。		○自分のしたい遊びをじっくり楽しむと共に、自分とは違う考えの友達がいることに気付くにつつ共に活動できるような、環境を工夫する。 ○一人一人の思いを大切にしつつ、友達と思いや考えを伝え合えるよう、仲立ちをしたり、見守ったりする。 ○絵本やお話などから、夢を広げて遊べるように、環境を整える。 ○一人一人の発想や素朴な表現を、共感をもって受け止め、安心して自分なりのイメージが表現できるようにする。		○一人一人が自分の役割を果たせるよう、個々や集団への援助をしていく。 ○年長児になることへの期待をもつような言葉かけや環境づくりをする。 ○季節の行事や伝承あそびができるように、材料や用具を準備する。 ○冬の自然現象との出会いを見逃さず、園児の気付きを受け止め、共感する。 ○一人一人の発想や表現を共感して、みんなでイメージを共有して遊べるようにする。			環境構成・援助	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○秋の自然や自然物に触れる機会を持ち、園児の発見や驚きに共感し、全体に広げる場を設ける。 ○自然物で遊んだり、遊びに必要なものを作ったりできるように、材料や用具を準備しておく。</p> </div>								
○行事の多い時期なので、安全と健康管理について連携をとる。 ○地域の自然、行事・施設などにかかわる機会を持ち、多様な人との触れ合いや、体験ができるようにする。 ○行事の取り組みの様子やねらいを伝え、園児の成長につながっていることを伝える。		○自然体験や絵本の読み聞かせ、クリスマスなどの行事を通して、親子で夢や感動を共有することの大切さを知らせる。 ○薄着の習慣や風邪予防など、冬の生活習慣が身につくよう、家庭でも配慮していただく。		○感染症について知らせ家庭でも予防を心がけてもらう。 ○年長児になることへの期待を持てるように、保護者と共に園児の成長を喜び合ったり、話し合ったりする場を設ける ○伝統的な行事を保護者や地域の人と楽しむ機会を作ったり、家庭で話すよう働きかけたりする。			家庭・地域との連携	
○夏季休業中の生活経験を共有できるように工夫する。		○家庭や園での生活経験の違いを受け止め、互いに刺激しあって経験の幅が広がるような遊びを工夫する。 ○日が短くなる時期には、2号認定児が心細くなることもあるので、安心して過ごせるようにする。					在園時間の違い	に対する配慮

5 歳児

期	I		II		
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
姿	<ul style="list-style-type: none"> ○知っている遊びや憧れていた遊びなど自分のしたい遊びを見つけ、意欲的にしようとする。一方で、背伸びをして選んだ遊びは長続きしないことがある。 ○トラブルが起きると、まだ友達同士では解決し切れずに、遊びが途切れたり、保育者の援助を求めたりする。 ○年長児になった喜びと自覚をもち、友達や年少児へ自分から関わろうとする。 ○飼育動物の世話、遊んだ用具の片付けなどを進んでしようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達と誘い合って遊び始め、共有できる遊びを考えたり、遊び方を伝え合ったりし始める。 ○自分の考えだけで遊びを進めようとする子や、気持ちを抑え込んだり、あきらめたりする子がいる。 ○工事ごっこなどイメージを共有し、水や泥・土を使って、友達と一緒にダイナミックに遊んでいる。 		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○年長として進級した喜びや自覚を持って、進んで遊びや生活に取り組む。 ○身近な自然やまわりの環境に興味や関心をもち、取り入れて遊ぼうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○周囲に積極的に働きかけ、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。 ○友達と共に体を動かしたり、遊びを伝え合ったりすることを楽しむ。 ○梅雨から夏にかけての自然に興味や関心をもち、 		
内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが気持ちよく過ごせるために、生活のきまりを決めたり、伝え合ったりし、見通しをもって行動する。 ① ② ③ ④ ○戸外での集団遊びを楽しみ、伸び伸びと体を動かして遊ぶ心地よさを感じとる。 ⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ○水遊びやプール遊びなどをしながら、水に慣れ親しみ開放感を味わう。 ⑥ 		
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○友達や年少児と関わりをもち、生活の仕方やいろいろな遊びを伝えようとする。 ⑦ ⑧ ⑨ 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と遊びを考えたり、遊びの中のルールを伝え合ったりする。 ⑩ ⑪ 		
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな遊具や用具を工夫して使うことを楽しもうとする。 ⑫ ○身近な春の自然に興味や関心をもち、草花や虫などに親しみながら、遊びに取り入れる。 ⑬ 	<ul style="list-style-type: none"> ○砂・土・水などを使って友達とイメージを共有し、ダイナミックに遊ぶ。 ⑭ ⑮ ⑯ ○小動物や虫の世話をしたり、遊んだりして、図鑑や絵本などで生態や生活の仕方を知り、大切にしようとする。 ⑰ ⑱ ○雨、雲、空、星など自然の事象に関心をもち、梅雨期から夏にかけての自然を感じとる。 ⑲ ⑳ ㉑ ○花や野菜などの生長や収穫を楽しみにしながら世話をし、遊びに使ったり、料理をしたりする。 ㉒ 		

5 歳児

Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ			期
9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月
<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かす遊びやルールのある遊びを楽しみ、自分なりのめあてをもち、友達と伝え合ったり、工夫したりして活動しようとする。 ○友達のよさや得意なことが分かり、励まし合ったり、認め合ったりして遊びや生活に対して意欲的に取り組む。 ○身近な自然や生活の変化の中で見つけたことを友達と一緒に取り入れて楽しもうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの内容が豊かになり、友達と共通の目的をもって、考えたり工夫したりできるようになる。 ○友達との関わりの中でトラブルがあっても、一緒に考えながら共に解決しようとする。 ○秋から初冬にかけての自然の変化に気付き、木の葉や木の実などを拾ったり、集めたりして遊ぶ中で、知的好奇心や探究心が高まっていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ○氷や雪など身近な自然の変化や現象に興味をもち、友達同士伝え合ったり、試したりしようとする。 ○友達とのつながりが深まり、クラスなど大きな集団で共通の話題や目的をもった遊びが充実してくる。 ○入学への喜びや期待をもつようになり、自信をもって行動しようとする。 			姿
<ul style="list-style-type: none"> ○存分に体を動かし、自分なりのめあてをもって挑戦したり、友達と一緒に考えたり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○自分たちの遊びや生活に必要なルールを考え、守りながらみんなで遊ぶ楽しさを味わう。 ○周りの自然に親しみ、秋の気配に気づき、自然の美しさや不思議さを感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○互いの良さを認め合いながら、仲間意識を持って、主体的に遊びを進める。 ○自然の美しさや不思議さに気付き、秋から初冬にかけての自然の移り変わりを感じとる。 ○イメージを豊かに広げ、様々な方法で表現する楽しさを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に園生活を楽しみ、友達と共通の目的をもってやり遂げた満足感や充実感を味わう。 ○入学への期待を膨らませ、成長した喜びや感謝の気持ちをもつ。 ○冬から春にかけての移り変わりに関心をもつ。 			ねらい
<ul style="list-style-type: none"> ○健康で安全な生活をするために、手洗い・汗の始末をする。 ④ ⑤ 		<ul style="list-style-type: none"> ○うがいや衣服の調節などに気を付けて、健康な生活をする。 ④ ⑤ ○仲間意識をもち、全身を使って伸び伸びと遊び、充実感を味わう。 ④ ⑤ ○栽培した野菜の収穫を喜び、自然の営み、命をいただく。 ④ ⑤ 		<ul style="list-style-type: none"> ○冬の健康で安全な生活に必要な習慣を身に付ける。 ④ ⑤ ○寒さに負けず十分に体を動かし、いろいろな運動や遊びに取り組む。 ④ 			健康
<ul style="list-style-type: none"> ○ルールや役割などを話し合い、友達と協力して遊びを進める。 ④ ⑤ ○高齢者や地域の人々に親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感をもつ。 ④ 		<ul style="list-style-type: none"> ○遊びを進める中で、役割意識や責任感をもつ。 ④ ⑤ ⑥ 		<ul style="list-style-type: none"> ○劇遊びなど友達と共通の目的をもって遊びに取り組み、互いに役割を果たし、力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ○1年生になる喜びをもち、卒園に向けての活動を進める。 ④ ⑤ 			人間関係
<ul style="list-style-type: none"> ○秋の訪れに気付き、自然の美しさや不思議さに触れて感動したり、秋の虫や木の実などで遊んだりする。 ④ ⑤ ○国旗に親しみ、いろいろな国に関心をもつ。 ④ ⑤ ○遊びや生活の中で数量、位置、図形、時間などに関心をもつ。 ④ 		<ul style="list-style-type: none"> ○野山や地域に出かけ、自然や歴史文化に触れて存分に遊び、そのよさを味わう。 ④ ⑤ ○秋から初冬への自然の変化に興味や関心をもち、季節の移り変わりや動植物の営みに気付く。 ④ ⑤ 		<ul style="list-style-type: none"> ○こま回し、凧揚げ、カルタ取りなど日本古来の遊びに親しみ、友達と工夫して遊ぶ。 ④ ⑤ ⑥ ○冬の自然現象に興味をもったり、春の訪れに気付いたりして生命の息吹を感じる。 ④ 			環境

5 歳児

期		I		II		
月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
内容	言葉	○お話を聞いたり、絵本を読んでもらったりすることを楽しむ。 言		○生活の中で、自分の意志や気持ちを伝える。 言		
	表現	○友達と共に表現活動をする中で、友達の表現も興味をもって見ようとする。 豊		○友達と考えやイメージを出し合って遊ぶ中で、感じたことを表現する楽しさを味わう。 豊 協 言 ○様々な素材を使って、友達と一緒に工夫してつくったりすることを楽しむ。 豊 協 思		
環境構成・援助		○十分に体を動かして遊ぶ心地よさが味わえるような機会を意図的にもち、自分たちで遊び始めやすい雰囲気を作る。 障 自 ○好きな遊びを友達と共に考えて楽しめるよう、安全を確かめ、遊具・用具の種類や配置を工夫する。 協 思 ○身近な自然に触れて遊ぶ中で、より興味を持って見たり調べたりできるように図鑑や絵本を用意する。 然 ○年長児としての喜びや意欲を受け止め、異年齢児との触れ合いの中で、生活の仕方の手助けをしたり、優しく接したりする姿を認めていく。 道 社		○発見したり、試したり、工夫したりできるような素材、用具を準備し、友達と共に楽しめるようにする。 思 協 ○プール遊びでは、特に一人一人の状況を把握し、安全確保を図ると共に、幼児が安心して意欲的に遊べるようにする。 障 養 ○友達同士でお互いに考えを伝え合えるようにし、必要に応じて折り合いを付けられるように支援する。 道 言 ○地域の自然とも触れ合う機会をもち、感動したり、感じたことを伸び伸びと友達と伝え合ったりできるようにする。 言 然		
家庭・地域・小学校との連携		○入園や進級による不安な思いを受け止め、園での様子などを連絡ノートや掲示などで積極的に知らせながら、保護者との信頼関係を築く。 ○一人一人の家庭や園での生活の様子を把握し、園児の実情に応じた適切な援助をする。 ○非常時の措置と連絡方法を知らせる。		○保育参観などで園児たちの園での様子を知らせ、教育・保育への理解が深まるようにする。 ○梅雨期や夏期を健康に過ごすために家庭との連携を密にし、健康状態を把握したり、園だよりなどで発信したりする。		
在園時間の違いに対する配慮		○教育標準時間後は、2号認定児がゆったりと家庭的な雰囲気の中で過ごせるように工夫する。 ○＜夏季休業中＞1号認定児には、園での遊びの様子を知らせながら、家庭でも共通の体験ができるようにする。(夏のしおりなど) ○＜夏季休業中＞2号認定児が、家庭的な雰囲気でも過ごしながらか、地域の行事など多様な生活経験が味わえるようにする。				

5 歳児

Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ			期	
9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月	
<p>○友達や人の話をよく聞き、思ったことや感じたことを言葉で伝え合う喜びを味わう。 (言)</p>		<p>○絵本や童話を聞き、想像する楽しさを味わう。 (言)</p> <p>○自分の気持ちを相手にわかるように話したり、相手の考えを受け入れたりして遊ぶ。 (言) (協)</p>		<p>○文字や数量、図形などへの関心が深まり、遊びの中で積極的に使う。 (数)</p> <p>○進んで話を聞こうとし、自分の思いや考えが言葉で伝わる喜びを味わう。 (言)</p>			言葉	内容
<p>○ダンスなどの動きや振付などを考え、友達と一緒に全身を使って表現する。 (豊) (協)</p>		<p>○友達と一緒に考えたり、試したりしながら、いろいろな方法で表現する楽しさを味わう。 (思) (豊)</p> <p>○音楽に親しみ、友達と共に歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。 (豊)</p> <p>○いろいろな素材・用具を目的に合わせて使い、かいたり、つくったりして遊ぶ。 (豊) (思)</p>		<p>○自分の力を発揮し、友達と考えやイメージを重ね合わせて遊ぶことを楽しむ。 (協) (豊) (自) (思)</p>			表現	
<p>○体を動かす遊びが楽しめるような遊具や用具を用意し、励ましたり、認めたりしながら、意欲的に遊べるようにする。 (健) (自)</p> <p>○自分たちで遊びのルールを考えたり工夫したりできるように、場や用具など必要に応じて援助する。 (道) (思)</p> <p>○遊びに必要なものを作ったり、使って遊んだりできるように環境を整える。 (思)</p> <p>○食べ物を大切にす気持ちや感謝の気持ちが芽生えるようにする。 (道)</p> <p>○園内外の秋の自然に触れる機会を多くもち、発見したり、感動体験をクラスで共有したりする場をもつ。 (豊) (然)</p>		<p>○共通の目的やイメージをもち、いろいろな方法で表現できるよう、絵本や視聴覚教材・楽器などの環境を整える。 (言) (豊)</p> <p>○個々やグループでの多様な取り組みを受け止め、その過程で友達の表現を互いに見合ったり、表現したりして、遊びが高まるように配慮する。 (協) (豊) (言)</p> <p>○秋から初冬にかけての変化に気付けるような直接体験を多く取り入れ、好奇心や探究心が深まるようにする。 (然)</p>		<p>○友達と共に遊びを進めていく様子を見守ったり、励ましたり、共感したりしながら、互いのよさを認め合うことのできる雰囲気づくりをする。 (協) (言) (思)</p> <p>○冬の自然現象に対する幼児の発見や驚きに共感したり、春の訪れに気付いたりするような機会をもつ。 (然)</p> <p>○日本古来の遊びや行事に親しめるように由来を伝えたり、用具を準備したりする。 (社)</p> <p>○一人一人の成長を互いに喜び合い、卒園に向けての環境づくりをする。また、年少児や家族・お世話になった人達に感謝の気持ちを表す機会をもつ。 (社)</p> <p>○日常生活の中で、文字などを使いながら、相手に伝える喜びや楽しさを味わえるようにする。 (数) (言)</p>			環境構成・援助	
<p>○行事の多い時期なので、安全と健康管理について連携をとる。</p> <p>○地域の自然、行事・施設などにかかわる機会を持ち、多様な人との触れ合いや、体験ができるようにする。</p> <p>○行事の取組の様子やねらいを伝え、園児の成長につながっていることを伝える。</p>		<p>○自然体験や絵本の読み聞かせ、クリスマスなどの行事を通して、親子で夢や感動を共有することの大切さを知らせる。</p> <p>○薄着の習慣や風邪予防など、冬の生活習慣が身につくよう、家庭でも配慮を依頼する。</p>		<p>○感染症について知らせ家庭でも予防を心がけてもらう。</p> <p>○スムーズな移行ができるよう、小学校との交流を計画する。</p> <p>○就学への期待が持てるように、保護者と共に園児の成長を喜び合ったり、話し合ったりする場を設ける</p> <p>○伝統的な行事を保護者や地域の人と楽しむ機会を作ったり、家庭で話すよう働きかけたりする。</p>			家庭・地域・小学校との連携	
<p>○夏季休業中の生活経験を伝え合うなど、互いに共有できるように工夫する。</p>		<p>○家庭や園での生活経験の違いを受け止め、互いに刺激し合って、経験の幅が広がるような遊びを工夫する。</p>					在園時間の違い	配慮

『三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラム』

編集関係者（平成25年度～平成27年度）

委員名	所属
石野 秀明	兵庫教育大学大学院 准教授
松本恵美子	関西国際大学教育学部 准教授
上原 里佳	エンゼル保育園 主任保育士
永尾 詩帆	えびす保育園 主任保育士
富田 訓子	広野幼稚園 主任教諭
高見 恭子	自由が丘東幼稚園 教諭
櫻本 千春	学校法人りんでん学園緑が丘幼稚園 教諭
筒井美和子	吉川保育所 主任保育士
藤本 恵美	志染保育所 主任保育士
名里佐智子	あけぼの保育園 主任保育士
若田 和美	吉川保育所 主任保育士

『三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラム』

見直し検討関係者（平成30年度）

委員名	所属
松本恵美子	関西国際大学教育学部 准教授
鈴木 正敏	兵庫教育大学学校教育研究科 准教授
岩崎めぐみ	神和認定こども園 主幹保育教諭
木幡 タ子	自由ヶ丘認定こども園 主幹保育教諭
永尾 詩帆	えびす認定こども園 主幹保育教諭
名里佐智子	あけぼの認定こども園 主幹保育教諭
巽 千恵子	上の丸保育所 主任保育士
武蔵 恭子	緑が丘東幼稚園 主任教諭

事務局： 三木市教育委員会 教育振興部 教育・保育課